# KENWOOD

オーディオ ビデオサラウンドレシーバー

# KRF-X9060D

## 取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

*付属のリモコンについて*

本機のリモコンは、従来のリモコンに比べて多くの操作モードを持っています。
リモコンを有効に使用するためにもこの取扱説明書をよくお読みになり、リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたなどをよくご理解の上でご使用ください。
リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたを知らないまま操作すると、正しく操作できないことがあります。

B60-5308-00 00 (MA) ( J ) NV 0204

## 取扱説明書の使用方法

本書は、準備編、操作編、リモコン操作編、その他、の4つの章に分かれています。

### 準備編
安全上のご注意、お手持ちのオーディオおよびビデオ機器との接続のしかたや、サラウンド設定などの準備のしかたを説明しています。
まずはじめに安全上のご注意をよくお読みください。またお手持ちのオーディオやビデオ機器によっては、接続がとても複雑になることがありますので、取扱説明書をよくお読みのうえ、接続してください。

### 操作編
本機で使用できる各種機能の操作方法を説明しています。

### リモコン操作編
他の機種をリモコンで操作するための方法を説明しています。各種の設定、登録を済ませておくと、本機とお手持ちのAV機器（テレビやビデオ、CDプレーヤー等）が、本機に付属のリモコンだけで操作できるようになります。

### その他
「故障かな？と思ったら」、「定格」などを示してあります。

### お手入れのしかた
前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

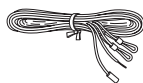
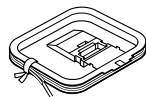
### 接点復活剤について
接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

### ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。近くにいる人や、隣り近所への配慮を十分いたしましょう。特に密集した場所でご使用になる場合は、音量を控え目にするなどして、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

## 付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

FM 室内アンテナ（1本）

AM ループアンテナ（1個）

リモートコントロールユニット（1個）
（RC-R0814）

リモコン用単3乾電池(2本)

# 本機の特長

### 多彩なホームシアター機能
本機には、ご家庭で映像ソフトやオーディオソースを十分に楽しんでいただくために多彩なリッスンモードを用意しています。お手持ちの機器や、再生する映像ソフトに合わせてモードを選び、お楽しみください。

→ 35

### THX
THXモードはTHX特有の機能を作動させ、ご家庭で映画館のような雰囲気を楽しめます。 → 37

### THX Surround EX
THX Surround EXモードでは、Dolby Digital Surround EX技術を使ってサウンドトラックをミキシングする時に追加されたチャンネルを再生することができます。このチャンネルはサラウンドバックと呼ばれます。THX Surround EXモードはTHX特有の機能を作動させ、ご家庭で映画館のような雰囲気を楽しめます。 → 37

### Dolby Digital および Dolby Digital EX
Dolby Digitalリッスンモードは Dolby Digitalフォーマット（5.1channel）のサウンドソースを楽しむことができます。このフォーマットでは、最大5.1チャンネルの独立したデジタル信号が入力されるので、従来のドルビーデジタルサウンドソースに比べて、圧倒的に高音質で迫力ある臨場感を楽しむことができます。Dolby Digital Surround EXフォーマットは、サラウンドバックチャンネルを従来の左と右のサラウンドチャンネルのサウンドソース上に埋め込むことができ、再生する際は、サラウンドバックチャンネル用のスピーカーを視聴する場所の後ろに置くことにより、映画館で体験するような、音の躍動感をご家庭で楽しむことができます。THX Surround EXおよびDolby Digital EXリッスンモードは両方ともDolby Digital Surround EXファーマットのサウンドソースを楽しむためのリッスンモードですが、好みにより使い分けることができます。

### Dolby PRO LOGIC II
DOLBY PRO LOGIC II は、従来のPRO LOGICとの互換性を持ちながら、より高いサラウンド効果を生み出します。通常のステレオ録音やドルビーサラウンド録音のソフトでも、「5.1ch」のように聞こえます。PRO LOGIC II は空間全体に影響を及ぼすような、前後に広がりのあるサウンド空間をつくり出すのが特長です。PRO LOGIC II は DOLBY SURROUND マークのあるビデオソフトでは感動的なサラウンドサウンドを生み出し、音楽CDでは3次元的なサウンド空間をつくり出します。お好きな音楽で本格的なステレオサラウンドサウンドをお楽しみください。

### DTS-ES
DTS-ES ( Extended Surround ) は　従来の5.1chのサラウンドを発展させ、バックサラウンドチャンネルが加わった6.1chサラウンド方式です。DTS-ESフォーマットはDVD, CD または LD等のメディアにあらかじめ記録され、完全に独立したバックサラウンドを持つDTS-ES Discrete 6.1 と　マトリクス技術を駆使し左右のサラウンドチャンネルに埋め込まれたバックサラウンドを再生する DTS-ES Matrix 6.1 の2つのモードがあり、どちらも従来の5.1chフォーマットとの互換性を完全に持ちます。加えられたバックサラウンドチャンネルによる6.1chサラウンド再生は　後方からの音像定位感が増し、より自然な臨場感、音響効果をもたらします。
NEO:6はDTS社が開発した新しい技術で、高精度のマトリクス処理技術により2チャンネル信号から臨場感あふれる高品位な 6チャンネルサラウンドを楽しむことが可能です。NEO:6には映画を楽しむための "CINEMA" モードと音楽を楽しむための "MUSIC" モードの2つのモードがあります。
重要：
DTSディスクをCD、LDまたはDVDプレーヤで再生するとアナログ出力チャンネルにノイズが乗ることがありまので、デジタル出力を本機に接続することを推奨します。

### SRS Circle Surround II (●)CS
SRS Circle Surround II™はCS-6.1™システムによりCS-5.1™システムを改善し、ステレオソースまたは在来のサラウンドでエンコードされたビデオソースからリアルなマルチチャンネルのサラウンド音を聞くことができます。すでにドルビーデジタルサウンド/DTSマルチチャンネルサウンドをマルチスピーカーで聞いて楽しんでいると思いますが、これからは、マルチスピーカーを使用してオーディオCD、MD、放送そしてホームシアターを楽しんでください。SRS Circle Surround II™で新しいタイプの音が発見できます。

### DSP サラウンドモード
本機のDSP（デジタルシグナルプロセッサー）では、“ARENA”、“JAZZ CLUB”、“THEATER”、“STADIUM”、“DISCO”といった様々な質の高い音場効果が得られます。

### ACTIVE EQ
ACTIVE EQモードは再生音をより迫力のあるものにします。ACTIVE EQモードによりどのような条件においてもよりダイナミックで高品質の音が作り出せます。ドルビーデジタルそしてDTS再生において ACTIVE EQモードにすることにより、より印象的な音響効果を楽しむことができます。

### SPEAKER EQ
組み合わされるスピーカーの特性に合った調整を行う機能で、スピーカーのサイズに合った特性にすることで、特にミュージックソースを聞くときなど、そのソースの原音に近い特性を引き出すことができます。小型スピーカーなど、スピーカーの大きさにかかわらず、臨場感のあるサウンドが楽しめます。

### 共通赤外線リモコン
リモコンで働くほとんどのオーディオ、ビデオ機器を本機のリモコンで操作できます。接続した機器を簡単な手順で登録することができます。

# 目次

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

# 安全上のご注意



製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

## 絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 絵表示の例

△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります）

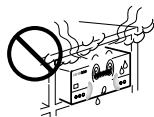
# ⚠ 警告

## 交流100ボルト以外の電圧で使用しない

この機器は、交流100ボルト専用です。指定以外の電源電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

## 放熱に注意

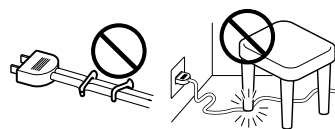
設置の際は、壁から10cm以上離してください。
機器のカバー等にある穴は、放熱のための通風孔ですので、ふさがないようにご注意ください。

- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 風通しの悪い狭い所に押し込まない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上において使用しない。

通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

## 風呂、シャワー室では使用しない

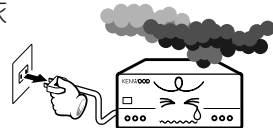
風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

## 電源コードの取扱い

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定しないでください。また、電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら（芯線の露出、断線など）修理をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

## 異常が起きた場合は

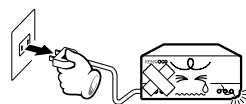
煙が出たり、変な臭いや音がする場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

# 警告

## 電源プラグは清潔に

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

きれいにしましょう

## 落下した機器は使わない

機器を落としたり、カバーやケースがこわれた場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

## ケースを絶対に開けないでください

機器の裏ぶた、カバーを開けたり、改造をしないでください。
内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

## 雷が鳴り始めたら

アンテナ線や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

## 機器の内部に水や異物を入れない

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かないでください。
こぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

内部に水や異物などが入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

## 電池は放置しない

電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。ボタン電池など小型の電池は特にご注意下さい。
電池をあやまって飲み込むおそれがあります。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

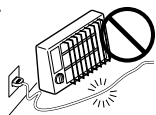
## 乾電池は充電しない

乾電池は充電しないでください。
電池の破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。

充電禁止

# ⚠ 注意

## 電源コードを熱器具に近付けない

電源コードを熱器具(ストーブ、アイロンなど)に近付けないでください。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

## 不安定な場所には置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

## 湿気やほこりのある場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台、加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所には置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

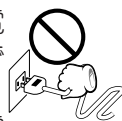
## 温度の高い場所には置かない

窓を閉めきった自動車の中や、直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

## 電源プラグの抜き差しは

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。
発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

# ⚠ 注意

## 長期間使用しないときは

旅行などで長期間、ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災の原因となることがあります。

## 指定以外のコードを使わない

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。
指定以外のコードを使用したりコードを延長すると発熱し、やけどの原因となることがあります。

## 機器に乗らない

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

## 指をはさまない

お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に手を入れないようご注意ください。
指がはさまれて、けがの原因となることがあります。

## 指定機器以外の物を乗せない

この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

## レーザー光源はのぞかない

レーザー光源をのぞき込まないでください。
レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

## アンテナ工事

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

## ひび割れディスクは使わない

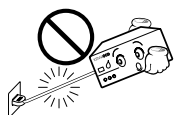
ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。
ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

# 注意

## 音量に気をつけて

はじめに音量(ボリューム)を最小にしてください。
突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにしてください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

## 移動させる際は

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

## 電池の取扱い

電池は誤った使い方をすると、破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。
次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示(プラス"+"とマイナス"ー"の向き)に注意し、表示通りに入れてください。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。

## お手入れの際は

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電の原因となることがあります。

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、またはは最寄りのケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。

# 各部のなまえと働き

## メインユニット

❶ **POWER ON/OFFキー** → 25
主電源のオン/オフを切り換えます。

❷ **ON/STANDBY⏻キー** → 25
主電源がオンのとき、スタンバイ状態のオン/オフを切り換えます。

**STANDBY表示**

❸ **A SPEAKERS Bキー** → 29
スピーカーのA/Bを切り換えます。

❹ **THX キー** → 38
THXの状態を切り換えるときに使います。

❺ **SPEAKER EQキー** → 30
SPEAKER EQの設定をするときに使います。

❻ **サラウンド表示**

**THX表示** → 39
THXモードが選ばれた時に点灯します。再生モードによってはTHXが作動しないことがあります。

**SPEAKER EQ表示** → 31
SPEAKER EQモードのときに点灯します。

**ACTIVE EQ表示** → 31
ACTIVE EQモードのときに点灯します。

**DOLBY DIGITAL表示** → 38
ドルビーデジタルモードのときに点灯します。

**DTS表示** → 38
DTSモードのときに点灯します。

**CSⅡ表示** → 38
CIRCLE SURROUNDⅡモードのときに点灯します。

❼ **ACTIVE EQキー** → 30
ACTIVE EQの設定をするときに使います。

❽ **DSPキー** → 38
DSPモードを選択するときに使います。

❾ **STEREOキー** → 40
リッスンモードをステレオに切り換えるときに使います。

❿ **INPUT MODEキー** → 13
フルオート入力、デジタル入力、アナログ入力を切り換えます。

⓫ **DIMMERキー**
録音モードを変えます。 → 32
ディスプレイの明るさを調節します。 → 42

⓬ **VOLUME CONTROLつまみ** → 29

⓭ **MUTEキー** → 30
音を一時的に消すときに使います。

⓮ **PHONES端子** → 31
ヘッドホンで聴くときに使います。

⓯ **インプットセレクターキー** → 29
**(DVD/6CH, CD/DVD, PHONO, TUNER, VIDEO 1, VIDEO 2, VIDEO 3, MD/TAPE)**
入力ソースを選択します。

⓰ **SOUNDキー** → 40
音質や音場を調節したいときに使います。

⓱ **BANDキー** → 33
放送バンドを切り換えます。

⓲ **AUTOキー** → 33
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を選ぶときに使います。

⓳ **TONEキー** → 30
トーンを調節するときに使用します。

⓴ **MEMORYキー** → 33
放送局を登録するときに使います。

㉑ **SETUPキー** → 25
スピーカーの設定などをするときに使います。

㉒ **∧/∨ キー** → 25
SOUND, SETUPや PRESETチャンネル機能を調節するときに使います。

㉓ **MULTI CONTROLつまみ** → 25
いろいろな設定に使います。

㉔ **LISTEN MODEつまみ** → 38
リッスンモードを選ぶときに使います。

㉕ **AV AUX (S VIDEO, VIDEO, L-AUDIO-R) 端子** → 23

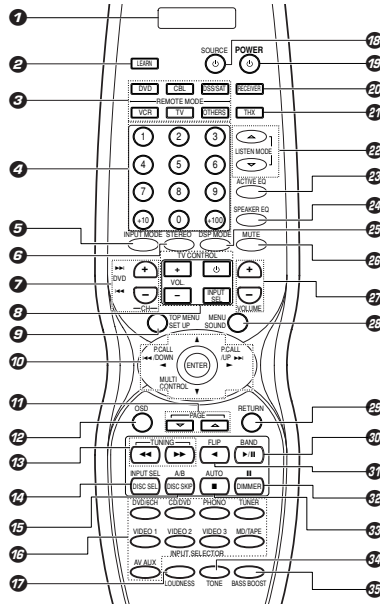
㉖ **AV AUX キー** → 23
AV AUXへ入力を切り換えるときに使います。

### スタンバイ状態について

本機のスタンバイインジケーターが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。このとき、リモコンで本機をオンにできます。

# リモコン

メーカーセットアップコードを正しく設定しておくと、ケンウッドの機器だけでなく、他社製の機器もリモコンで操作できます。 → 45

本体とリモコンで機能が同じでも、キーまたはつまみの名称が異なるものがあります。本取扱説明書の説明文中では、本体とリモコンで名称が異なる場合は、リモコンキーの名称をかっこ内に表記します。

**1 LCD (液晶ディスプレイ)**

**2 LEARNキー** → 44
他の機器のリモコンの操作を記憶させる際に使います。

**3 REMOTE MODEキー(DVD、CBL、DSS/SAT、VCR、TV、OTHERS)** → 43
それぞれの入力チャンネルに登録された装置を選択する際に使います。

**4 数字キー** → 43
他の装置に添付されているリモートコントロールの数字キーと同じ機能です。

**5 INPUT MODEキー** → 13
フルオート入力、デジタル入力、アナログ入力を切り換えます。

**6 STEREOキー** → 40
リッスンモードをステレオに切り換えるときに使います。

**7 CH +/- キー**
チャンネルを選ぶときに使います。
**►►I DVD I◄◄ キー**
接続したDVDプレーヤーを操作するとき、スキップキーとして使います。

**8 TV CONTROLキー**
テレビの操作をするときに使います。

**9 TOP MENUキー**
DVDの操作に使います。
**SET UPキー** → 25
スピーカーの設定などをするときに使います。

**10 ジョイスティック**
**ENTER**
他の機器の操作に使います。
**MULTI CONTROL ▲/▼** → 25
いろいろな設定に使います。
他の機器の操作に使います。
**P.CALL I◄◄/DOWN◄及びP.CALL/UP ►►I ►** → 34
SOUND, SETUPや PRESETチャンネル機能を調節するときに使います。

**11 PAGE △/▽キー**
DVDの操作に使います。

**12 OSDキー**
DVDの操作に使います。

**13 TUNING ◄◄/►►キー**
チューナーの操作に使います。
接続したCDプレーヤー、MDプレーヤー、TAPEを操作するとき、サーチキーとして使います。

**14 DISC SELキー**
他の機器の操作に使います。
**INPUT SELキー**
他の機器の操作に使います。

**15 DISC SKIPキー**
マルチCDプレーヤーを接続したときに、ディスクスキップキーとして使います。
**A/Bキー**
ダブルカセットデッキを接続したときに、A、Bのカセット切り換えに使います。

**16 INPUT SELECTORキー(DVD/6CH, CD/DVD, PHONO, TUNER, VIDEO 1, VIDEO 2, VIDEO 3, MD/TAPE, AV AUX)** → 29
入力ソースを選択します。

**17 LOUDNESSキー** → 30
低音域を上げるときに使います。

**18 SOURCE ⏻ キー**
他の機器の電源のオン/オフを切り換えます。

**19 POWER ⏻ キー** → 25
レシーバーの電源のオン/オフを切り換えます。

**20 RECEIVERキー**
レシーバーの操作をするときに使います。

**21 THXキー** → 38
THXの状態を切り換えるときに使います。

**22 LISTEN MODE △/▽キー** → 38
リッスンモードを選ぶときに使います。

**23 ACTIVE EQキー** → 30
ACTIVE EQの設定をするときに使います。

**24 SPEAKER EQキー** → 30
SPEAKER EQの設定をする時に使います。

**25 DSP MODEキー** → 38
DSPモードを選択するときに使います。

**26 MUTEキー** → 30
音を一時的に消すときに使います。

**27 VOLUME +/-キー** → 29
レシーバーの音量を調節します。

**28 MENUキー**
他の機器の操作に使います。
**SOUNDキー** → 40
音質や音場を調節したいときに使います。

**29 RETURNキー**
DVDの操作に使います。

**30 ►/II キー**
接続したCDプレーヤーを操作するときは、再生/一時停止キーとして使います。接続したMDプレーヤーやTAPEを操作するときは、再生キーとして使います。
**BANDキー** → 33
放送バンドを切り換えます。

**31 ◄ キー**
他の機器の操作に使います。
**FLIPキー**
DVDの操作に使います。

**32 DIMMERキー** → 42
ディスプレイの明るさを調節します。
**II キー**
他の機器の操作に使います。

**33 ■ キー**
接続したCDプレーヤーやMDプレーヤー、TAPEを操作するときは、停止キーとして使います。
**AUTOキー** → 33
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を選ぶときに使います。

**34 TONEキー** → 30
トーンを調節するときに使用します。

**35 BASS BOOSTキー** → 30
低音域を調節できる最大値に設定します。

**⚠ 注意** 接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。機器の接続は14ページ～24ページをご覧ください。

**関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。**

### *マイコンの誤動作について*

**正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「故障かな?と思ったら」を参照してマイコンをリセットしてください。**

→ 49

**⚠ 警告** *ACコンセント*

背面のACコンセントに接続する装置の消費電力の合計が指定値を超えないようにしてください。火災の原因になります。
電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。
また、供給電力以内であっても、テレビなど電源を入れたときに大電流が流れる機器は使用しないでください。

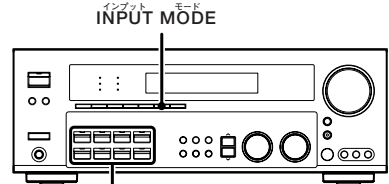
ご注意

1. 機器間の接続を行なうときは、必ず各機器の電源を切ってから行なってください。
2. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
3. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。
4. 屋外アンテナの設置は危険を伴いますので、販売店、または専門の技術者にご依頼ください。
5. 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラが発生することがありますので、設置にご注意ください。

### *アナログ接続について*

オーディオ機器はオーディオピンコードで接続します。その場合、音声はアナログステレオ信号で入出力されます。オーディオピンコードは赤い端子（R側に接続）と白い端子（L側に接続）のペアになっています。これらのコードはお手持ちの機器に付属されています。もしくはお近くの販売店で購入してください。

### *インプットモードの設定*

**CD/DVD、VIDEO 2、VIDEO 3、DVD/6CH**の入力は、それぞれデジタル音声入力とアナログ音声入力の端子を持っています。
**工場出荷時におけるCD/DVD、DVD/6CH、VIDEO 2およびVIDEO 3のオーディオ信号インプットモードはフルオートモードに設定してあります。**
接続を終了し、本機の電源を入れた後に以下の操作でインプットモードを選んでください。

❶ **インプットセレクターキーでCD/DVD、VIDEO 2、VIDEO 3またはDVD/6CHを選ぶ。**

❷ **INPUT MODEキーを押す。**

**押すたびに切り換わります。**

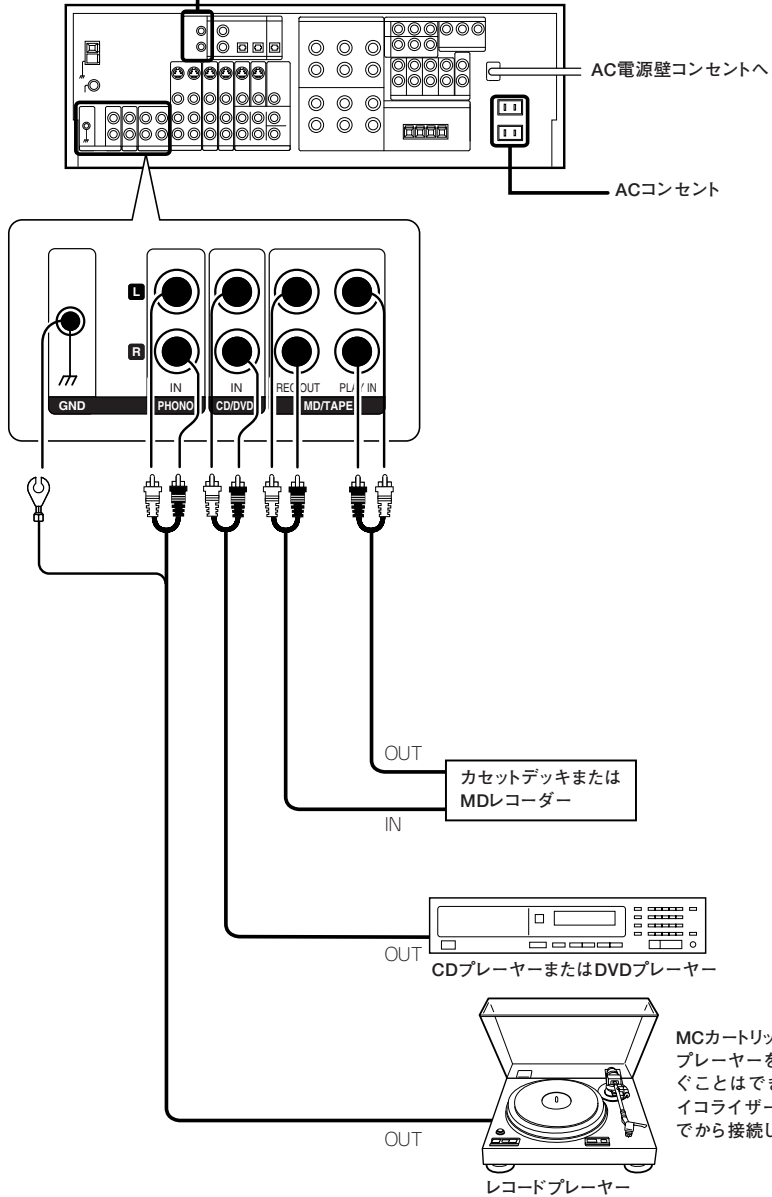
**DTSモードのとき**
① **FULL AUTO** （デジタル入力、アナログ入力）
② **DIGITAL MANUAL** （デジタル入力）

**CD/DVD、VIDEO 2、VIDEO 3またはDVD/6CHのとき**
① **FULL AUTO** （デジタル入力、アナログ入力）
② **DIGITAL MANUAL** （デジタル入力）
③ **6CH INPUT** （DVD/6CH入力）
④ **ANALOG** （アナログ入力）

**デジタル入力：**
DVD、CD、LDなどに記録されているデジタル音声信号を再生したいときに選びます。

**アナログ入力：**
カセットテープ、ビデオテープ、レコードなどに記録されているアナログ音声信号を再生したいときに選びます。

**オートディテクト：**
**FULL AUTO**モード（ディスプレイ内の**AUTO DETECT**インジケーター点灯）ではデジタル入力信号を自動的に検出し、再生します。また、デジタルソース再生時には入力信号の種類(ドルビーデジタル、PCM、DTSなど）とスピーカーの設定に合わせてリッスンモードを自動的に選びます。デジタル信号が検出された場合は入力信号の経路に対応してOPTICALまたはCOAXIAL表示が点灯します。アナログ信号が入力された場合はANALOG表示が点灯します。
現在選んでいるリッスンモードを継続したい場合は、**INPUT MODE**キーで**“DIGITAL MANUAL”**（マニュアルサウンド）を選んでください。**”DIGITAL MANUAL"**に設定した場合、リッスンモードとドルビーデジタルソースの組み合わせによっては、設定したリッスンモードが自動的に変更されることがあります。
INPUT MODEキーをすばやく押すと、音声が聞こえなくなることがあります。その場合再度INPUT MODEキーを押し直してください。

# オーディオ機器の接続

この端子（⏚マークの端子）はアナログプレーヤー等を接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

## ビデオ機器の接続

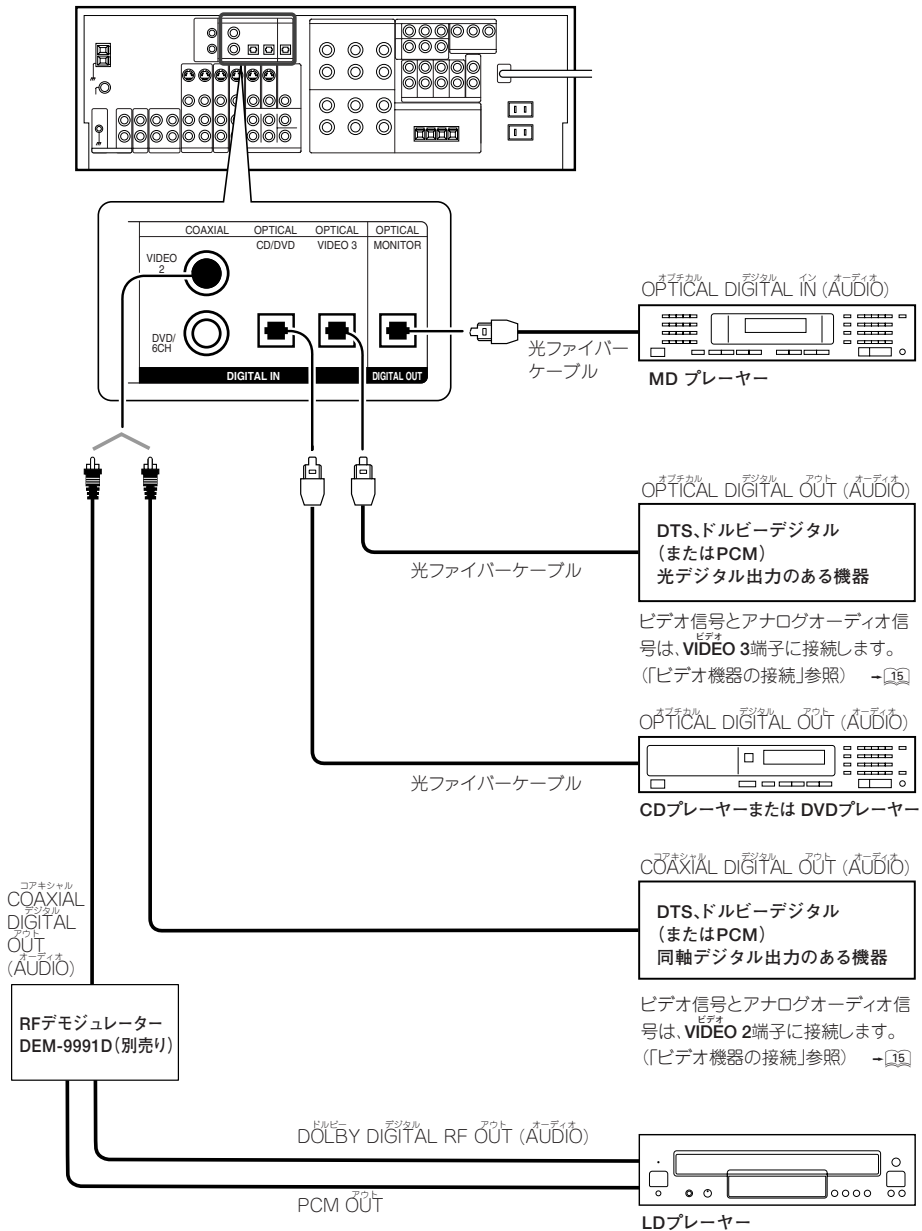
**S VIDEOビデオ端子**

**S VIDEO端子付きの機器の場合は、S VIDEO接続ケーブルを用いることで、より質の高い映像が楽しめます。**

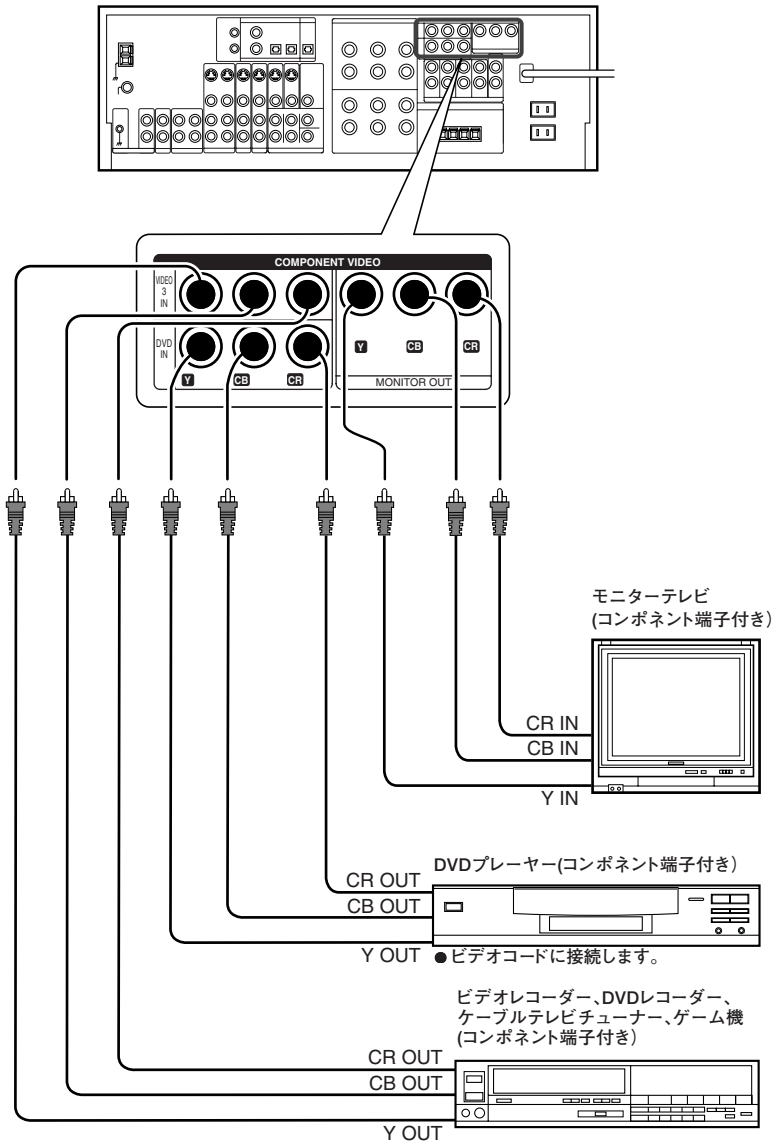
- ビデオデッキなどを**S VIDEO**接続ケーブルで接続したときは必ずモニターテレビへの接続も**S VIDEO**接続ケーブルで接続してください。

デジタル音声出力のあるビデオ機器をお持ちの方はVIDEO 2またはVIDEO 3端子に接続してください。

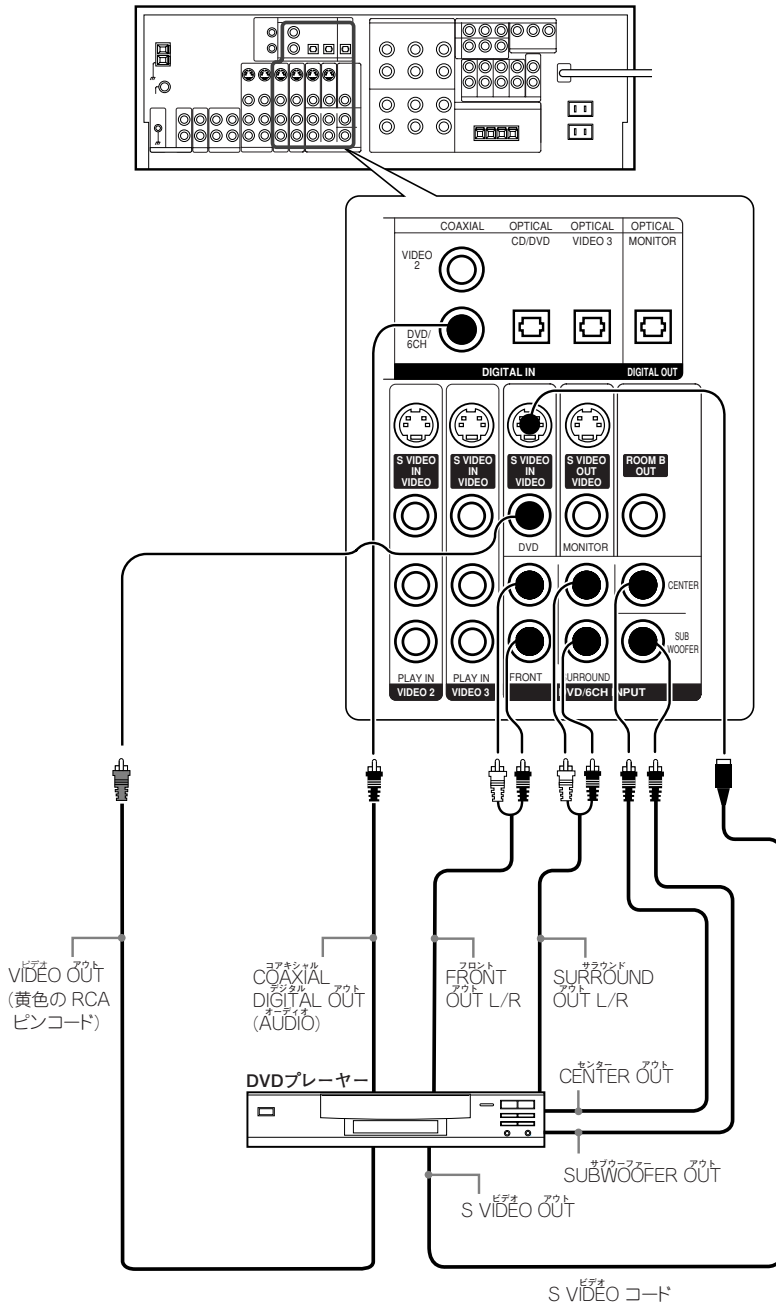
# デジタル機器の接続

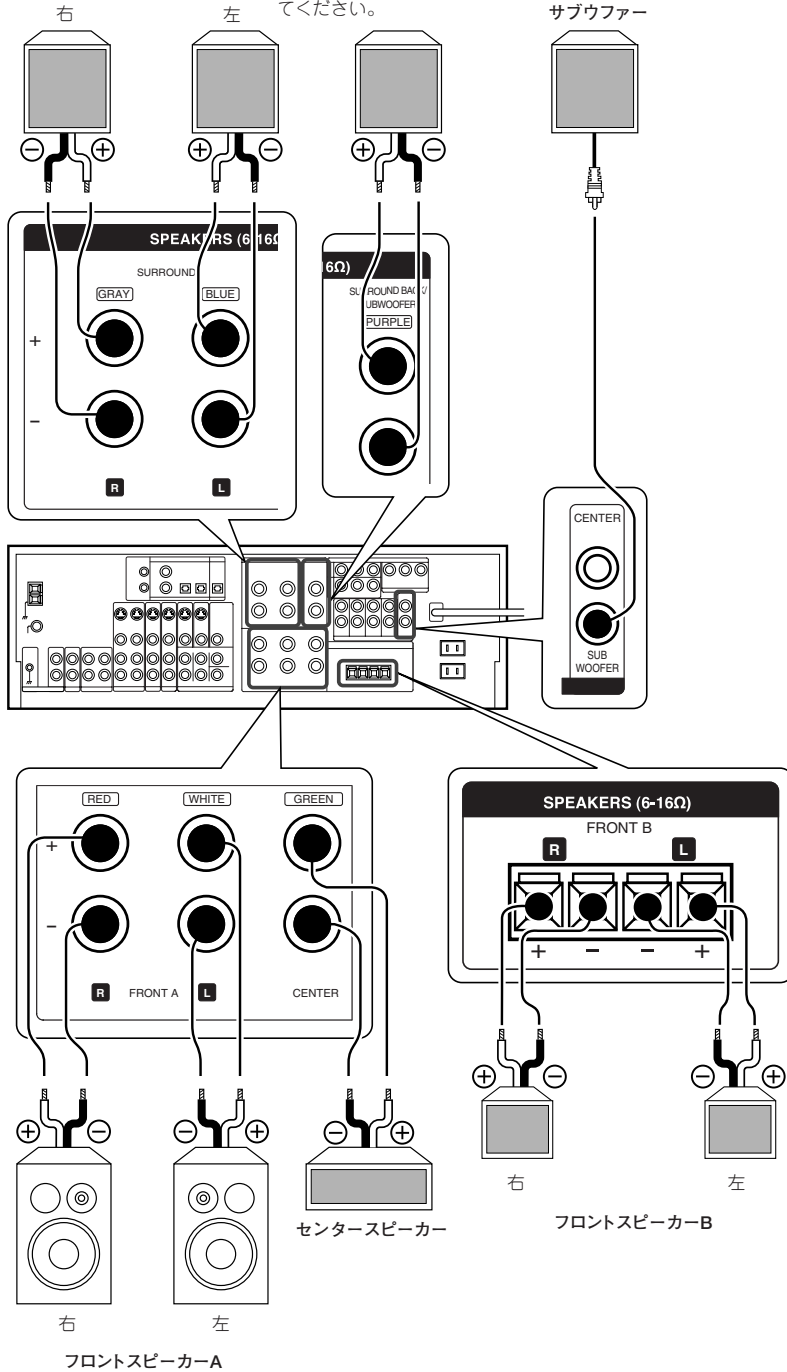
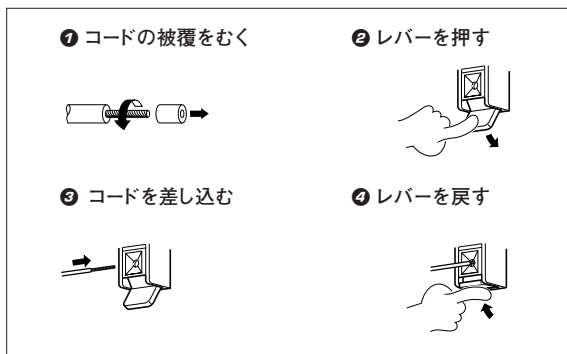
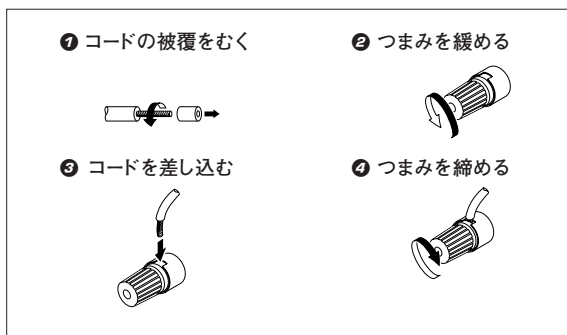
デジタル入力端子はドルビーデジタル、DTSまたはPCM信号で使用できます。ドルビーデジタル、DTSまたはPCM（CD）標準フォーマットのデジタル信号を出力できる機器を接続します。
デジタル機器を接続したときは「インプットモードの設定」をよくお読みください。 →13

DIGITAL RF OUT端子のあるLDプレーヤーを接続するには、LDプレーヤーを別売りのRFデモジュレーター（DEM-9991D）に接続します。
それから、デモジュレーターのDIGITAL OUTを本機のDIGITAL IN端子に接続します。
ビデオ信号とアナログオーディオ信号をVIDEO 2端子またはVIDEO 3端子に接続します。（「ビデオ機器の接続」参照）

## ビデオ機器の接続（COMPONENT VIDEO）

COMPONENT端子を使用してレシーバーとビデオ装置の接続をした場合はS VIDEO端子を使用して接続した場合よりも高品質の画像が得られます。

COMPONENT端子を使ってテレビを接続する場合は、他のすべての機器もCOMPONENT端子を使って接続してください。

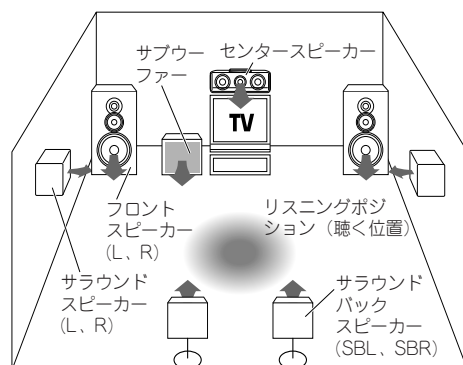
## DVDプレーヤーの接続（6チャンネル入力）

デジタル機器を接続したときは「インプットモードの設定」をよくお読みください。 →13

## スピーカーの接続

サラウンドスピーカー
（必ず両方のサラウンドスピーカーを接続してください）
右
左
サラウンドバック/サブウーファー
サラウンドバックスピーカーを“6ch AMP SB”設定で使用する場合、またはサブウーファーを“6ch AMP SW”設定で使用する場合はこの端子を使用してください。
アンプ内蔵サブウファー
SPEAKERS (6-16Ω)
SURROUND
GRAY
BLUE
R
L
PURPLE
CENTER
SUB WOOFER
RED
WHITE
GREEN
FRONT A
CENTER
SPEAKERS (6-16Ω)
FRONT B
右
左
センタースピーカー
フロントスピーカーB
右
左
フロントスピーカーA

# スピーカーターミナルの接続

- スピーカーコードの+と−は絶対にショートさせないでください。
- 左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。

### スピーカーインピーダンス

フロントスピーカー ........ 6〜16 Ω
センタースピーカー ........ 6〜16 Ω
サラウンドスピーカー ........ 6〜16 Ω

### サラウンドスピーカーの設置のしかた

**フロントスピーカー**：前面左右に設置します。モードにかかわらず必ず使用します。

**センタースピーカー**：前面中央に設置します。音像の定位を良くし、音の移動感を再現します。サラウンド再生には必ず必要です。

**サラウンドスピーカー**：座る位置の真横または少し後ろで、聴く人の耳の位置より1メートルほど上方に、水平な状態で設置してください。音の移動感や臨場感などを再現します。サラウンド再生には必ず必要です。

**サブウーファー**：重低音を迫力ある音で再現します。

**サラウンドバックスピーカー**：サラウンドバックスピーカーは視聴位置の後ろでサイドサラウンドスピーカーと同じ高さに設置してください。

- すべてのスピーカーを設置すると理想的なサラウンド再生ができますが、センタースピーカーまたはサブウーファーをお持ちでない場合は、それらの信号を各スピーカーに割り振って、お手持ちのスピーカーで最適な再生を行います。→25

# 他の部屋への接続(ROOM B)

他の部屋(ROOM B)のテレビまたはスピーカーを本機に接続することができます。

ROOM B OUT

CENTER

L

R

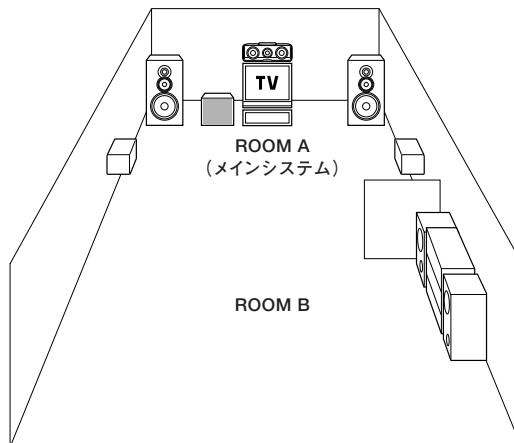
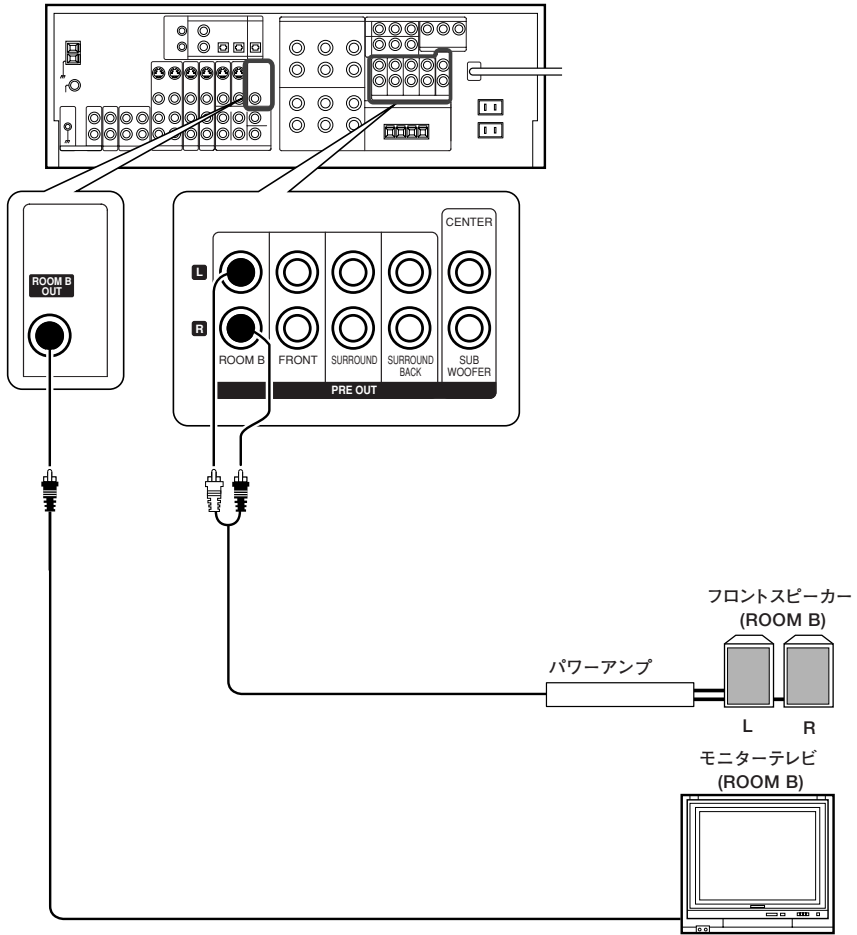
ROOM B　FRONT　SURROUND　SURROUND BACK　SUB WOOFER

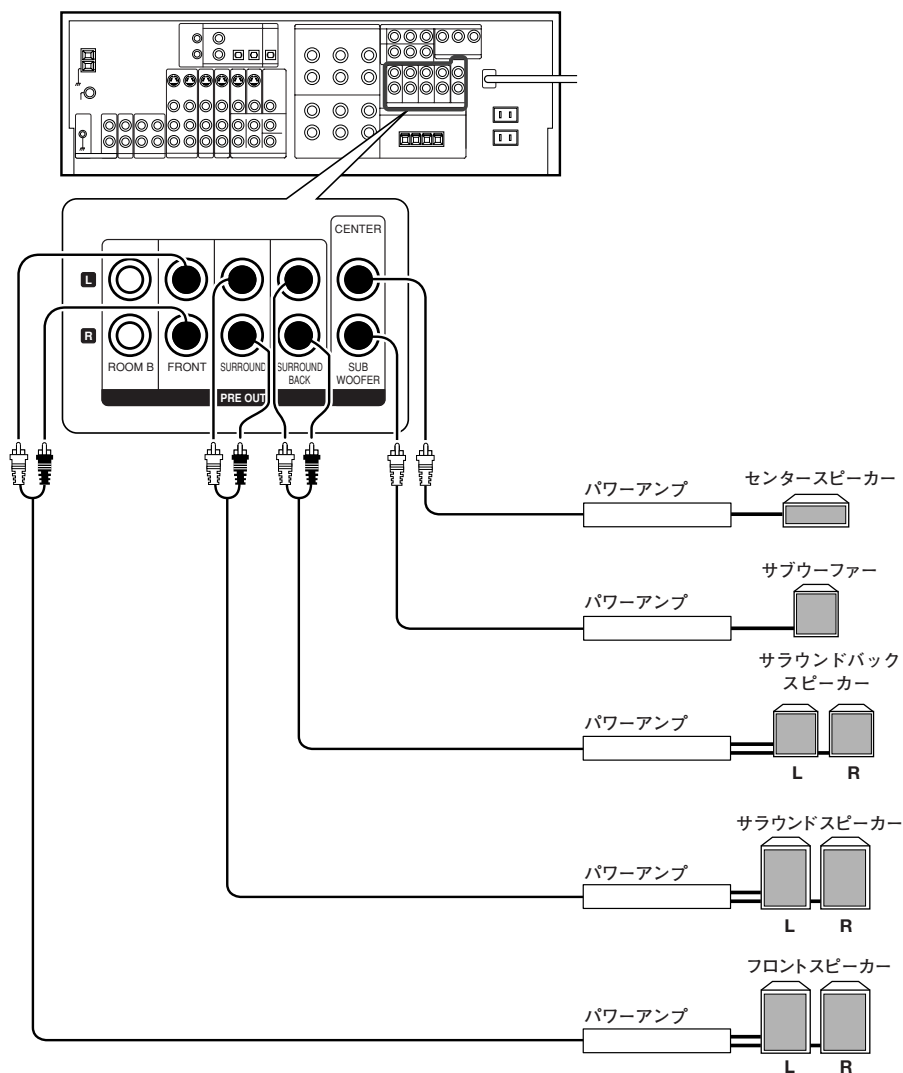
PRE OUT

フロントスピーカー
(ROOM B)

パワーアンプ

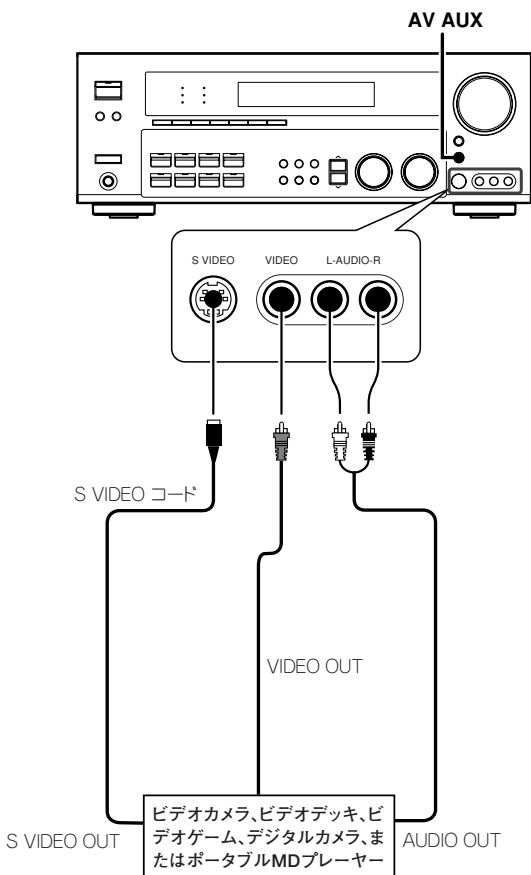
L　R

モニターテレビ
(ROOM B)

# PRE OUT の接続

本機にはPRE OUT端子が付いています。これらは色々な目的に使用することができますが、下図に例が示されているように追加のパワーアンプが必要となります。

- スピーカーコードを**PRE OUT**端子に接続しても、スピーカーからは音は出ません。
- **PRE OUT**端子を使用するときは、**SPEAKERS A**キーをオンにしてください。
- **"6ch AMP SB OFF"**を選択した場合、音声は左サラウンドバックスピーカー**PRE OUT**出力のみから出力されます。(モノラル)
- 他の部屋で聴くときに使用されます。

## *本体前面のAV AUX端子への接続*

ポータブルビデオカメラ機器など通常は本機に接続してご使用にならない機器は、本体の前面にあるAV AUX端子に接続します。ポータブルビデオカメラからダビングする時などに使用すると便利です。

- **AV AUX端子に接続されたソースを選択する場合は、AV AUXキーを押してください。** →29
- **ポータブルビデオカメラのほかに、ポータブルMDプレーヤーなどのオーディオ機器も接続することができます。その場合は、AUDIO L/R端子のみ接続して下さい。**
- **S VIDEO端子付きの機器の場合は、S VIDEO接続ケーブルを用いることで、より質の高い映像が楽しめます。**

## *アンテナの接続*

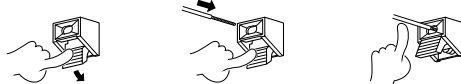
**⚠ 注意** *屋外アンテナ設置上のご注意*

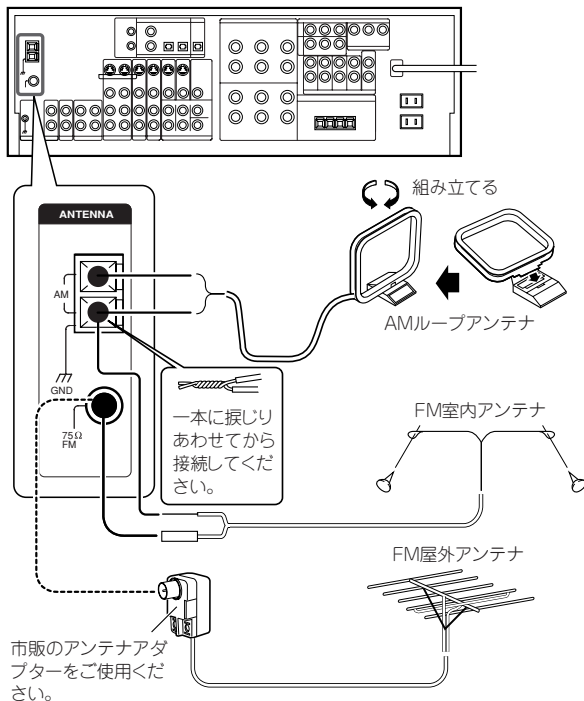
アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

### *AMループアンテナの接続*

付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで受信状態の一番よい方向に向けます。

**AMアンテナ端子の接続のしかた**

❶ レバーを押す　❷ コードを差し込む　❸ レバーを戻す

### *FM室内アンテナの接続*

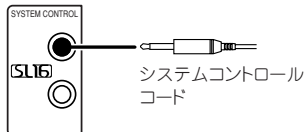
付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナの使用をお勧めします。屋外アンテナを接続する場合は、室内用アンテナは取り外してください。

### *FM屋外アンテナの接続*

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、FM75Ω 端子に接続します。

## システムコントロール接続

ケンウッドのオーディオコンポーネントシステムを接続したとき、システムコントロールコードを接続することで、便利な機器相互間のシステムコントロール動作が可能になります。

ケンウッドのシステムコントロールには、2種類のモードがあります。本機は [SL16] のモードのみに対応しています。[SL16] のモードに対応した機器と接続してください。

システムコントロール切り換えスイッチがある機器の場合は、[SL16] モードに切り換えて接続してください。

● システムコントロールコードは、上下どちらの端子でも接続できます。

**接続例: [SL16] モード接続**
下線部が選ばれているシステムコントロールモードを示します。

- ● システムコントロールを使うにはシステムコントロールケーブルを各機器の端子に正しく接続してください。2台以上のCDプレーヤーを接続する場合などは、CD端子につないだ1台だけがシステムコントロールできます。
- ● CDプレーヤー、カセットデッキには、[SL16] モードに対応している機器と対応していない機器があります。対応していない機器はシステムコントロール接続しないでください。
- ● MDレコーダーには、システムコントロールに対応していない機器があります。これらの機器はシステムコントロール接続はできません。

ご注意
1. [SL16] 以外のモードとのシステム動作の組み合わせはできません。もし、このような組み合わせであった場合は、システムコントロールコードは接続しないでください。システムコントロールを接続しなくても、通常の性能、操作性が損なわれることはありません。
2. 当社指定以外の機器との接続は、故障の原因となりますのでおやめください。
3. システムコントロールプラグは根元まで差し込んでください。

### システムコントロール動作について

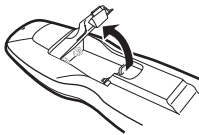
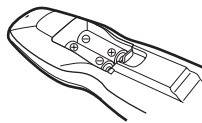
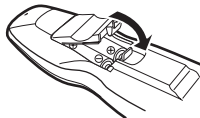
**リモートコントロール**
本機に付属するシステムリモコンで、ソース機器を操作することができます。

**オートマチックオペレーション**
ソース機器側の再生を始めると、本機の入力切換が自動的にその機器の入力切換に切り換わります。

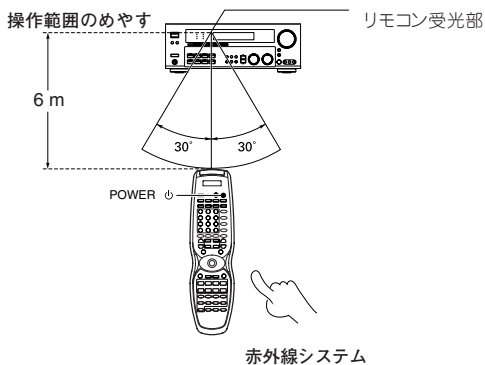
**シンクロ録音**
CD、MDを録音するときに、プレーヤーの再生を始めると、連動して録音をスタートさせることができます。

## リモコンの準備

### 電池を入れる

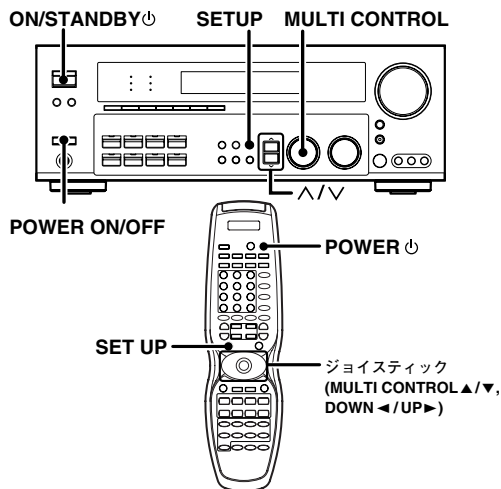
❶ ふたを開ける

❷ 電池を入れる

❸ ふたを閉める

● 単3乾電池(R6)2本を極性マークにしたがって入れる。

### 操作のしかた

本機がスタンバイ状態のときに、リモコンのPOWER(パワー) ⏻ キーを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいキーを押します。

● リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

ご注意
1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、すべて新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り換えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯(インバーター方式など)の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

## スピーカーの設定をする

工場出荷時は初期設定状態になっていますので、接続したスピーカー(サブウーファー、フロント、センター、サラウンド)の各種設定をします。

**1** *本機のPOWER ON/OFFとON/STANDBY⏻キーまたはリモコンのPOWER⏻キーを押して本機の電源をオンにする。*

**2** *SET UPモードにするためSETUPキーを押す。*

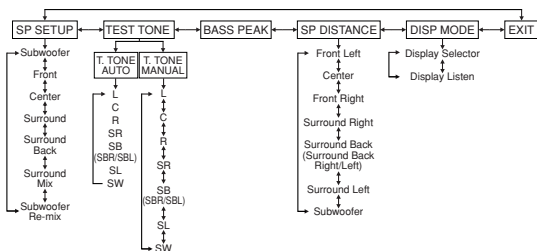
サラウンドバックまたはサブウーファースピーカーのための6ch AMP設定が表示されます。

- ① **6ch AMP SB** : サラウンドバックスピーカーをSurround Back/Subwooferスピーカー端子に接続した場合選択する。サブウーファー用の出力は、Subwoofer PRE OUT端子から取り出せます。
- ② **6ch AMP SW** : サブウーファースピーカーをSurround Back/Subwooferスピーカー端子に接続した場合選択する。サラウンドバック用の出力は、Surround Back PRE OUTから取り出せます。
- ③ **6ch AMP OFF** : Surround Back/Subwooferスピーカー端子にスピーカーを接続していない場合選択する。モノラルのサウンドがSurrorund Back Left PRE OUT端子から取り出せます。

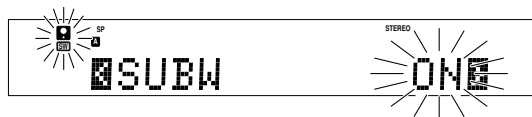
MULTI CONTROLつまみまたはジョイスティック(▲/▼)を使ってスピーカーを選択してください。
SETUP キーを押して次のセットアップに進んでください。

***∧/∨キーまたはジョイスティック(◄/►)を使うと次の順で切り換わります。***

- ① **SP SETUP**
- ② **TEST TONE**
- ③ **BASS PEAK**
- ④ **SP DISTANCE**
- ⑤ **DISP MODE**
- ⑥ **EXIT**

SET UPフローは以下のようになります。

**3** *接続しているスピーカーを選ぶ。*

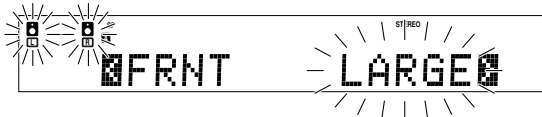
THXが承認したスピーカーを接続しているときは、NML/THXに設定する。

**❶ SP SETUPを選択してSETUPキーをもう一度押すと、サブウーファー設定表示"SUBW ON"があらわれます。**

**❷ MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってサブウーファーの設定をする。**

- ① **SUBW ON** : サブウーファーの設定をONにするとき。
- ② **SUBW OFF** : サブウーファーの設定をOFFにするとき。

- 初期設定は"SUBW ON"になっています。
- "SUBW OFF"を選び、∧キーを押して確定した場合、フロントスピーカーは自動的に"FRNT LARGE"(ラージ)に設定され、手順❻に進みます。
- サブウーファー出力が必要な場合には"FRNT NML/THX"を選択するか、または"FRNT LARGE"かつ"SW RE-MIX ON"を選択してください。
- SW(サブウーファー)をOFFからONに設定後、6ch AMP設定画面が表示されサラウンドバックまたはサブウーファー端子からの出力を設定するためSW、SBまたはOFFが選択できます。

**❸ ∧キーまたはジョイスティック(►)を押して確定させる。**

- フロントスピーカーの設定表示は、"FRNT"になります。

**❹ MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってフロントスピーカーの設定をする。**

- ① **FRNT LARGE**(ラージ) : 大きめのフロントスピーカーのとき。
- ② **FRNT NML/THX**(ノーマル) : 普通のフロントスピーカーのとき。

- "SUBW ON" に設定し、"SW RE-MIX ON"を選ぶと、サブウーファーから音が聞こえます。
  ステレオモードでは、音声がフロントスピーカーに直接送られます。

**❺ ∧キーまたはジョイスティック(►)を押して確定させる。**

- センタースピーカーの設定表示は、"CNTR"になります。

次頁に続く

❻ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってセンタースピーカーの設定をする。**

**フロントスピーカーを "LARGE" に設定したとき**

① **CNTR LARGE**（ラージ）：大きめのセンタースピーカーのとき。
② **CNTR NML/THX**（ノーマル）：普通のセンタースピーカーのとき。
③ **CNTR OFF**：センタースピーカーの設定をOFFにするとき。

**フロントスピーカーを "NML/THX" に設定したとき**

① **CNTR NML/THX**：センタースピーカーの設定をONにするとき。
② **CNTR OFF**：センタースピーカーの設定をOFFにするとき。

❼ **∧キーまたはジョイスティック(▶)をもう一度押して確定させる。**
- サラウンドスピーカーの設定表示は、"SURR"になります。

❽ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってサラウンドスピーカーの設定をする。**

**センタースピーカーを "LARGE" に設定したとき**

① **SURR LARGE**（ラージ）：大きめのサラウンドスピーカーのとき。
② **SURR NML/THX**（ノーマル）：普通のサラウンドスピーカーのとき。
③ **SURR OFF**：サラウンドスピーカーの設定をオフにするとき。

**センタースピーカーを "LARGE" 以外に設定したとき**

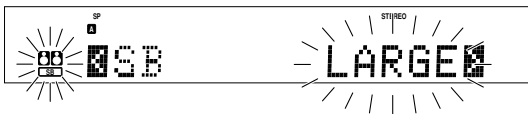
① **SURR NML/THX**：サラウンドスピーカーの設定をONにするとき。
② **SURR OFF**：サラウンドスピーカーの設定をOFFにするとき。

- "SURR OFF"を選択した場合は手順⓭に進みます。

❾ **∧キーまたはジョイスティック(▶)をもう一度押して確定させる。**
- サラウンドスピーカーの設定表示は、"SB"になります。

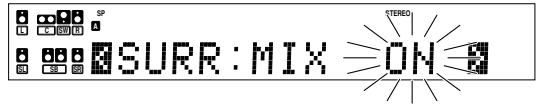
❿ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってサラウンドバックスピーカーの設定をする。**

**サラウンドスピーカーを "LARGE" に設定したとき**

① **SB NML/THX**（ノーマル）：普通のサラウンドスピーカーのとき。
② **SB LARGE**（ラージ）：大きめのサラウンドスピーカーのとき。
③ **SB OFF**：サラウンドバックスピーカーの設OFFにするとき。

**サラウンドスピーカーを "LARGE" 以外に設定したとき**

① **SB NML/THX**：サラウンドバックスピーカーの設定をONにするとき。
② **SB OFF**：サラウンドバックスピーカーの設定をOFFにするとき。

- SB（サラウンドバック）をOFFからNML/THXに設定後、6ch AMP設定画面が表示されサラウンドバックまたはサブウーファー端子からの出力を設定するためSW、SBまたはOFFが選択できます。

⓫ **∧キーまたはジョイスティック(▶)をもう一度押して確定させると"SURR:MIX"が表示されます。**
- SURR:MIXをONに設定すると左右のサラウンドチャンネルのサウンドがミックスされサラウンドバックサウンドを作り出します。

SURR:MIX ON

⓬ **MULTI CONTROLつまみまたはジョイスティック(▲/▼)を使って以下を選択します。**

① **SURR:MIX ON**：サラウンドミックスの設定をONにするとき。
② **SURR:MIX OFF**：サラウンドミックスの設定をOFFにするとき。

- サラウンドスピーカーの設定がOFFの時は、SURR:MIXはスキップされ手順⓭に進みます。

⓭ **∧キーまたはジョイスティック(▶)をもう一度押して確定させる。**
- サブウーファーリミックスの設定表示は"SW RE-MIX"になります。

⓮ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってサブウーファーリミックスの設定をする。**

① **SW RE-MIX ON**：サブウーファーリミックスの設定をONにするとき。
② **SW RE-MIX OFF**：サブウーファーリミックスの設定をOFFにするとき。

- サブウーファーの設定がOFFのときは,サブウーファーリミックスは設定できません。

⓯ **SETUPキーをもう一度押すとメインの設定画面に戻ります。**
- スピーカーの音量レベルを調節するモードになります。
- **4**、**5**で選ばれたスピーカーで、調整が必要なチャンネルのみ表示されます。

## 4 各スピーカーの音量レベルを調節する。

実際に聴く位置で、ポータブルのSPLメーターを使い、メータの読み取り単位を"C"に設定し、腕をいっぱいに延ばした状態でノイズレベルの読みが75dBになるようにボリュームレベルを調整する。SPLメーターがない場合はボリュームレベルを0dBから少しづつ上げてゆき各スピーカーからのレベルがほぼ同じになるように調整する。

❶ **∧/∨キーまたはジョイスティック(◀/▶)を押してTEST TONEを選択する。**

❷ **SETUPキーを押すと、以下のように切り換わります。**

① **T.TONE AUTO**
② **T.TONE MANUAL**

❸ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼) を使ってAUTO、またはMANUAL TEST TONEを選択する。SETUPキーをもう一度押すと、TEST TONEが始まります。**

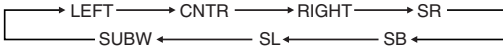
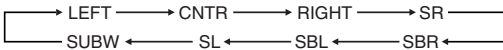
**調節したいスピーカーチャンネルからテストトーンが出ているときにMULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使って音量レベルを調節する。**

**AUTOを選択すると最初に左フロントスピーカーから2.5秒間テストトーンが聞こえ、その後、以下に示される順番で各スピーカーからに2秒間ずつテストトーンが聞こえます。**

6ch AMP SBを選んだ時

LEFT → CNTR → RIGHT → SR → SB → SL → SUBW → LEFT

6ch AMP SWまたは OFF を選んだ時

LEFT → CNTR → RIGHT → SR → SBR → SBL → SL → SUBW → LEFT

テストトーン出力中のチャンネルが点灯します。

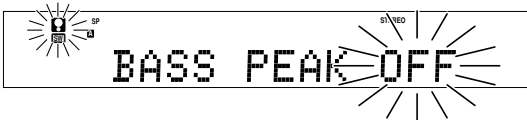
- 再生時に各スピーカーの音量レベルを変更すると、この項で設定した内容も変わります。 →40
- スピーカー設定をOFFにすると、設定していたスピーカーレベルはリセットされます。

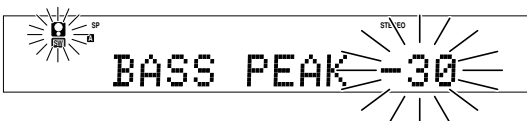
**MANUALを選択した場合、スピーカーチャンネルを選ぶごとに∧/∨キーまたはジョイスティック(◄/►)を押します。**

❹ **もう一度SETUPキーを押す。**
- テストトーンが止まり、スピーカーまでの距離を入力するモードになります。

## 5 バスピーク(BASS PEAK)レベルの調整。

サブウーファースピーカーを強いバス（低音）出力によるダメージから守るため、バス出力に制限をかけることができます。制限をかけた後はボリュームを最高に上げてもバス出力は制限値を越えません。サブウーファースピーカーがOFFの場合はこの制限は左右のフロントスピーカー出力に加えられます。

❶ **∧/∨キーまたはジョイスティック(◄/►)を使ってBASS PEAKを選びSETUPキーを押す。**

❷ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使って制限値を-30dBまで設定する。**
- バスピークレベルを-30dBに設定すると自動的にテストトーンが発生します。
- 調整可能範囲は-30dB～0dBそしてOFFです。

❸ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼) を使って制限値を-30dBから徐々に上げ、テストトーンが歪む直前に設定する。**

❹ **SETUPキーを押して確定させる。**

## 6 スピーカーまでの距離を入力する。

❶ **∧/∨キーまたはジョイスティック(◄/►)を使って設定メニューのSP DISTANCEを選択しSETUPキーを押す。**

❷ **リスニングポジション(聴く位置)から各スピーカーまでの距離をはかる。**

**メモしておきましょう。**

| | |
|---|---|
| フロント左スピーカーまで(L) | ＿＿＿ メートル |
| センタースピーカーまで(C) | ＿＿＿ メートル |
| フロント右スピーカーまで(R) | ＿＿＿ メートル |
| サラウンド右スピーカーまで(SR) | ＿＿＿ メートル |
| サラウンドバック右スピーカーまで(SBR) | ＿＿＿ メートル |
| サラウンドバック左スピーカーまで(SBL) | ＿＿＿ メートル |
| サラウンド左スピーカーまで(SL) | ＿＿＿ メートル |
| サブウーファーまで(SW) | ＿＿＿ メートル |

❸ **∧/∨キーまたはジョイスティック(◄/►)を使ってスピーカーを選択し、MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼) を使ってフロントスピーカーからの距離を設定する。**

調整するスピーカーが点滅します。

フィート表示　　メートル表示

- 0.3m～9.0mまで、0.3mごとに調整できます。

❹ **❸を繰り返して各スピーカーまでの距離を入力する。**

❺ **SETUPキーをもう一度押すとメインの設定画面に戻ります。**
- 選ばれたスピーカーが表示部に表示されます。正しく選ばれているかを確認してください。

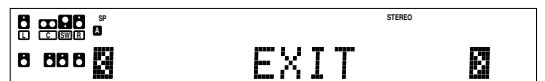
## 7 ディスプレイモードを選ぶ。

❶ **∧/∨キーまたはジョイスティック(◄/►)を使って DISP MODE選択しする。**

❷ **SETUPキーを押すと以下のように切り換わります。**
- ① DISP SELECTOR：選ばれている入力ソースを表示します。
- ② DISP LISTEN：選ばれているリッスンモードを表示します。

❸ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使って表示モードを選択する。**

❹ **SETUPキーをもう一度押して確定させる。**

❺ **∧キーまたはジョイスティック(►)を使ってEXITを選ぶ。**

❻ **SETUPキーを押すと設定モードが終了します。**

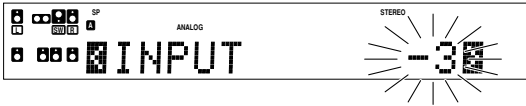
## インプットレベルの調整(アナログ再生時のみ)

アナログソースから入力されている信号が大きすぎるとき、CLIP表示が点滅します。インプットレベルを調節してください。

❶ **インプットセレクターキーで調整したいソースを選ぶ。**

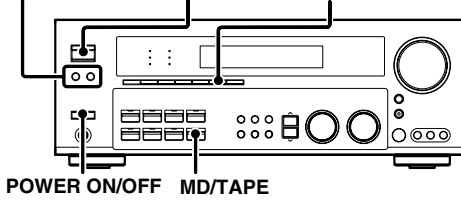
- それぞれの入力ソースに異なる入力レベルを記憶することができます。

❷ **SOUND(サウンド)キーと⌃/⌄キーまたはジョイスティック(◀/▶)を繰り返し押して"INPUT"表示にする。**

❸ **MULTI(マルチ) CONTROL(コントロール)つまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってインプットレベルを調整する。**

- 調整モードは約8秒間表示されます。
- インプットレベルは 0dB、−3dB、−6dBの3段階で調節できます(初期設定は0dB)。

❹ **SOUND(サウンド)キーをもう一度押して、入力表示に戻す。**

## 再生をする前に

再生をする前に必要な準備をしておきましょう。

### 電源の入れかた

❶ **関連機器を接続し、電源をオンにする。**

❷ **POWER ON/OFFとON/STANDBY ⏻キーを押して本機の電源をオンにする。**

### インプットモードの選択

**CD/DVD**、**VIDEO 2**、**VIDEO 3**、または**DVD/6CH**に接続した機器で再生するときは、インプットモードが接続した機器の再生する音声信号（デジタル入力またはアナログ入力）に合っていることを確認してください。 →13

### MD/TAPE の選択

MD/TAPE端子に接続した機器に入力の名称を合わせてください。工場出荷時は、"**TAPE**" になっていますので、"**MD**" に変更したいときは以下の操作を行ってください。

**MD/TAPEキーを2秒以上押し続ける。**

- 入力表示が "**MD**" に変わります。
- 元の表示に戻したいときは、この操作を繰り返してください。

### スピーカーシステムの選択

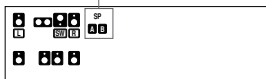
**スピーカーシステムを選択するためSPEAKERS AまたはSPEAKERS Bキーを押してください。**

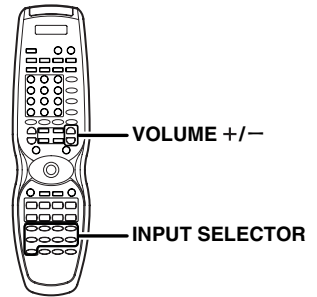
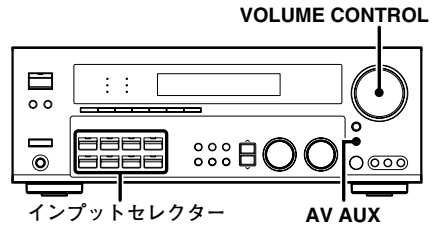
**A ON** ： 背面の**SPEAKERS A**端子に接続されたスピーカーから音声が出力されます。

**B ON** ： 背面の**SPEAKERS B**端子に接続されたスピーカーから音声が出力されます。サブウーファーからのサラウンド音は出力されません。

**A+B ON** ： 背面の**SPEAKERS A**および**B**端子に接続されたスピーカーから音声が出力されます。

**A+B OFF** ： スピーカーから音声は出力されません。すべての再生モードでヘッドホンを使用する際に設定してください。入力信号に応じて表示状態が変わります。

使用するスピーカーに対応する表示が点灯します。

- 入力ソースに"DVD/6CH"が選択され、かつインプットモードに"6CH INPUT"が選ばれている場合、**SPEAKERS A**が自動的に選択されます。

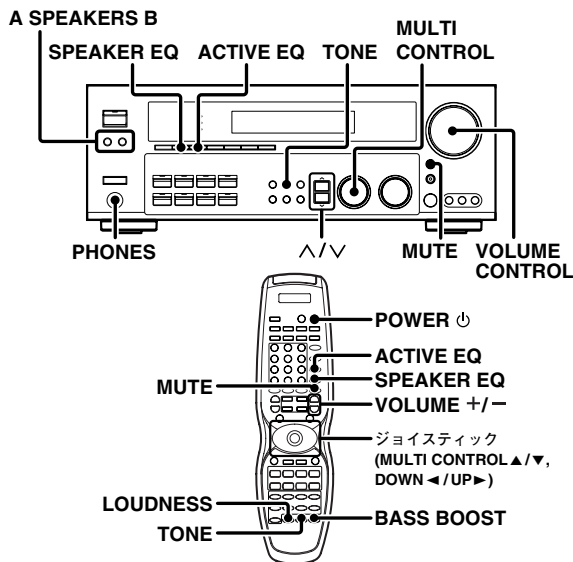
## 普通の再生

**1** ***インプットセレクターとAV AUXキーで聴きたいソースを選ぶ。***

それぞれのキーを使い入力ソースを選択してください。

① **"DVD/6CH"**
② **"CD/DVD"**
③ **"PHONO"**
④ **"TUNER"**
⑤ **"VIDEO1"**
⑥ **"VIDEO2"**
⑦ **"VIDEO3"**
⑧ **"MD/TAPE"**
⑨ **"AV AUX"**

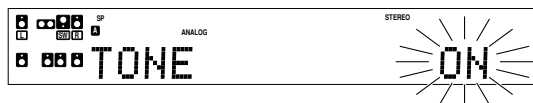
**2** ***選んだソースを再生する。***

**3** ***VOLUME CONTROLつまみ、またはVOLUME +/- キーで音量を調節する。***

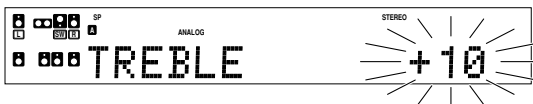
# 音の調節のしかた

## トーンレベルを設定する(リモコンのみ)

トーンレベルは、レシーバーがPCMステレオモードかアナログステレオモードになっていて、かつ"THX OFF"のときに設定できます。

❶ **TONEキーを押して、トーンレベル設定モードにする。**

❷ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってON/OFFを選択する。**

❸ **TONE ONを選択してもう一度TONEキーを押すと、次の順番で切り換わります。**

BASS　：バス(低音)レベルの設定。
TREBLE：トレブル(高音)レベルの設定。

❹ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってトーンレベルを設定する。**

- バスとトレブルのレベルは−10から+10の範囲で2ステップごとに調節できます。
- 設定終了後約8秒間過ぎるとトーンレベル設定モードは自動的に終了します。

## バスブースト機能(リモコンのみ)

バスブースト機能は、レシーバーがPCMステレオモードかアナログステレオモードになっていて、かつ"THX OFF"のときに使えます。

**BASS BOOSTキーを押す。**

- バス(低音)レベルが最大値(+10)に設定されます。
- トーンレベル設定モード、または38〜42ページで説明されているモードである場合、BASS BOOSTキーは使えません。

### もとの状態にもどすには

**もう一度BASS BOOSTキーを押します。**

## ラウドネス機能(リモコンのみ)

ラウドネス機能はボリュームが低いとき有効で、低音と高音のレベルを高くすることで、よりクリアーな音を楽しめます。この機能はPCMステレオモードかアナログステレオモードになっていて、かつ"THX OFF"のときに使えます。

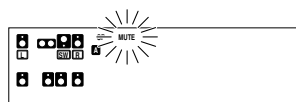
**LOUDNESSキーを押してLOUDNESS設定をONにする。**

### 解除するには

**もう一度LOUDNESSキーを押して"LOUDNESS"表示を消灯させます。**

## 一時的に音を消す

MUTEキーを使ってスピーカーから出る音を消すことができます。

**MUTE キーを押す。**

### 解除するには

**もう一度MUTEキーを押して"MUTE"表示を消灯させます。**

- VOLUME CONTROLつまみを回した場合、またはVOLUME +/−キーを押した場合はMUTE ONは解除されます。

## ACTVE EQモード

ドルビーデジタルおよび DTS再生、そしてPCMおよび アナログステレオモードにおいてACTIVE EQ機能をONにするとより印象的な音声効果を楽しむことができます。

**ACTIVE EQキーを押すと以下のように切り換わります。**

| | |
|---|---|
| ① **ACTIVE EQ MUSIC** | :音楽を聴く際に効果があります。（ACTIVE EQ表示が点灯） |
| ② **ACTIVE EQ CINEMA** | :映画を見る際に効果があります。（ACTIVE EQ表示が点灯） |
| ③ **ACTIVE EQ TV** | :テレビを見る際に効果があります。（ACTIVE EQ表示が点灯） |
| ④ **ACTIVE EQ OFF** | :ACTIVE EQ機能が解除されます。（ACTIVE EQ表示が消灯） |

- ディスプレイ上で“ACTIVE EQ”が右から左へスクロールします。
- ACTIVE EQおよびSPEAKER EQがオフの状態でACTIVE EQ (MUSIC)をオンにすると、自動的にSPEAKER EQ (SMALL)がオンになります。
- ACTIVE EQ機能はREC MODE、DTS-ES MATRIXがオンのとき、または96kHz リニアPCMを再生しているときには使用できません。

## SPEAKER EQモード

組み合わされるスピーカーの特性に合った調整を行う機能で、スピーカーのサイズに合った特性にすることで、特にミュージックソースを聞くときなど、そのソースの原音に近い特性を引き出すことができます。小型スピーカーなど、スピーカーの大きさにかかわらず、臨場感のあるサウンドが楽しめます。

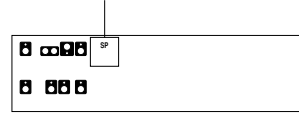
**SPEAKER EQキーを押と以下のように切り換わります。**

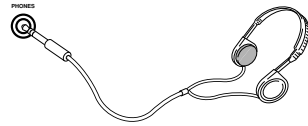
| | |
|---|---|
| ① **SPEAKER EQ SMALL** | :小口径のスピーカーを選択する。（SPEAKER EQ表示が点灯） |
| ② **SPEAKER EQ NORMAL** | :標準口径のスピーカーを選択する。（SPEAKER EQ表示が点灯） |
| ③ **SPEAKER EQ LARGE** | :大口径のスピーカーを選択する。（SPEAKER EQ表示が点灯） |
| ④ **SPEAKER EQ OFF** | :SPEAKER EQ機能が解除されます。（SPEAKER EQ表示が消灯） |

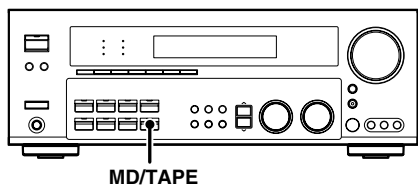
- ディスプレイ上で“SPEAKER EQ”が右から左へスクロールします。
- ACTIVE EQがオンのときは、SPEAKER EQをオフにすることはできません。
- SPEAKER EQ機能はREC MODE、DTS-ES MATRIXがオンのとき、または96kHz リニアPCMを再生しているときには使用できません。

## ヘッドホンで聴く

**❶ スピーカーAおよびBキーを押すと、スピーカー表示が消灯します。**

スピーカー表示の消灯を確認します。

- サラウンドモード時にスピーカーをオフにすると、サラウンドモードは解除され、ステレオ再生になります。

**❷ ヘッドホンをPHONES端子につなぐ。**

**❸ VOLUME CONTROLつまみ、またはVOLUME +/-キーで音量を調節する。**

## 録音のしかた(アナログソース)

### 音楽ソースを録音する

❶ インプットセレクターキーで録音するソース(“MD/TAPE” 以外)を選ぶ。

❷ TAPE、またはMDレコーダーを録音待機状態にする。

❸ ソースを再生し、録音を開始する。

## 録画のしかた

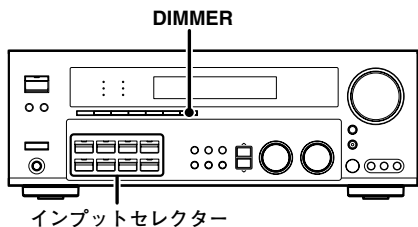
❶ インプットセレクターキーで録画するソース(“VIDEO 1” 以外)を選ぶ。

❷ VIDEO 1に接続したビデオデッキを録画待機状態にする。
- デジタルソースを録画する場合は次の“録音のしかた(デジタルソース)”を見てください。

❸ ソースを再生し、録画を開始する。
- 録画するビデオソースによってはコピープロテクトが働き、録画できないことがあります。 →49

## 録音のしかた(デジタルソース)

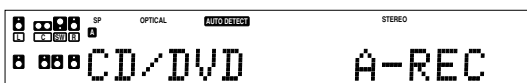
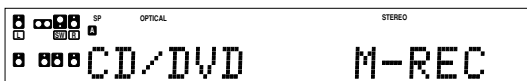
デジタル入力信号を録音するためには通常AUTO REC MODE(自動録音モード)を使用します。AUTO REC MODEで録音中にデジタル入力ソースが切り替わった場合は入力ソースがとぎれることがあります。

### AUTO REC(またはMANUAL REC)モードで録音する

❶ インプットセレクターキーで録音するソース(CD/DVD、DVD/6CH、VIDEO 2、VIDEO 3)を選ぶ。

❷ TAPE、またはMDレコーダーを録音待機状態にする。

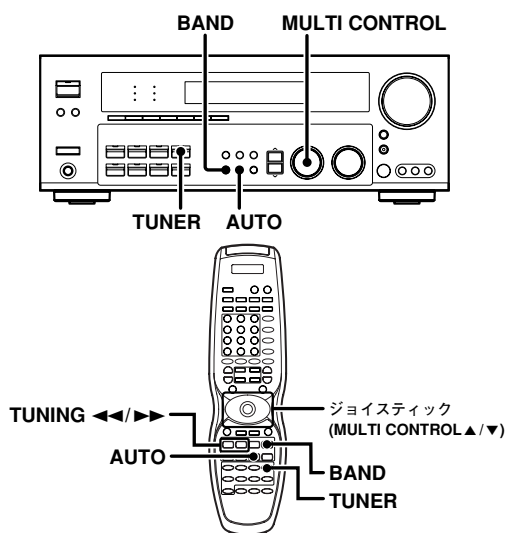
❸ デジタル入力中にDIMMERキーを2秒以上押して、AUTO RECまたはMANUAL RECモードを選ぶ。

① RECモードオフ ： オフ。
② AUTO RECモード ： デジタル信号(DTS、ドルビーデジタル、PCM)が自動的にステレオ信号にダウンミックスされます。
③ MANUAL RECモード ： デジタル信号(DTS、ドルビーデジタル、PCM)はステレオ信号にダウンミックスされません。

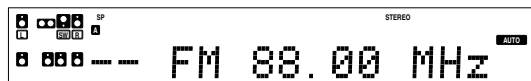
AUTO REC モード

MANUAL REC モード

❹ ソースを再生し、録音を開始する。
- 音声が出力されないときはDIMMERキーを押します。

# 放送を聴く

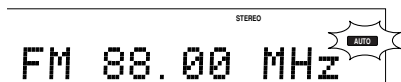
放送局を最大40局まで記憶できます。ワンタッチで受信することもできます。

## 放送を受信する

**1** ***TUNER(チューナー)キーでチューナーを選ぶ。***

**2** ***BAND(バンド)キーで放送バンドを選ぶ。***

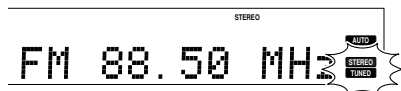
**押すたびにバンドが切り換わります。**

**3** ***AUTO(オート)キーで選局方法を選ぶ。***

**押すたびに以下のようにチューニング方法が切り換わります。**

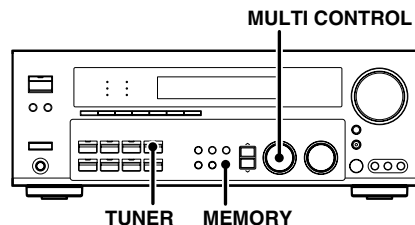
“**AUTO**”表示が点灯します。


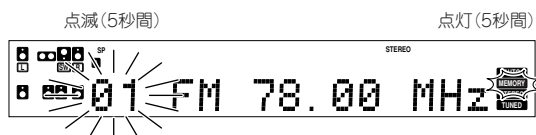

- 通常は、“AUTO”（オート選局）にしておきます。電波が弱く、雑音が多いときは、マニュアル選局にします。（マニュアル受信のとき、ステレオ放送はモノラル受信になります。）

**4** ***MULTI(マルチ) CONTROL(コントロール)つまみ、ジョイスティック(▲/▼)、またはTUNING(チューニング)◀◀/▶▶キーで放送局を選ぶ。***

ステレオ番組のとき、“**STEREO**”表示が点灯します。

受信すると、“**TUNED**”が点灯します。

**オート選局のとき**　：自動的に次の放送局を受信します。
**マニュアル選局のとき**：受信するまで、つまみまたはジョイスティック(▲/▼)を回し（またはキーを押し）ます。

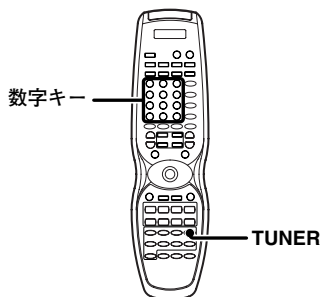
## 放送局を記憶させる

**1** ***記憶させたい放送局を受信する。***

**2** ***受信中にMEMORY(メモリー)キーを押す。***

> 5秒以内に手順**3**へ進む。
> （5秒以上たった場合は、もう一度MEMORY(メモリー)キーを押します。）

**3** ***MULTI(マルチ) CONTROL(コントロール)つまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使って1〜40のプリセット番号を選ぶ。***

**4** ***MEMORY(メモリー)キーをもう一度押して確定させる。***

- **1**、**2**、**3**、**4**を繰り返して、それぞれの放送局を記憶させます。
- 同じ番号に重ねて記憶させると、新しい記憶内容に変更されます。

## 記憶させた放送局を受信する

**1** TUNERキーでチューナーを選ぶ。

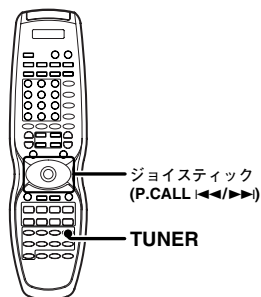
**2** 数字キーで目的の放送局のプリセット番号を押す(最大“40”)。

**数字キーを押す順序は…**

**“15” なら** +10, 5

**“20” なら** +10, +10, 0

- 10の桁を押し間違えたときは、**+10**キーを数回押し、元の表示に戻してから入力し直してください。

## 記憶させた放送局を順に聴く(P.CALL)

**1** TUNERキーでチューナーを選ぶ。

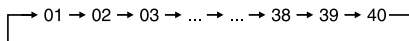
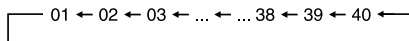
**2** ジョイスティックを使ってP. CALLの選局方向(昇順、降順)を決定する。

- ジョイスティックを押すたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。

**ジョイスティックでP. CALL⏭を選択すると次のように切り換わります。**

→ 01 → 02 → 03 → ... → ... → 38 → 39 → 40 ─┐ (40から01へ戻る)

**ジョイスティックでP. CALL⏮を選択すると次のように切り換わります。**

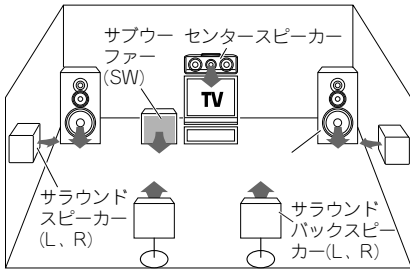
01 ← 02 ← 03 ← ... ← ... 38 ← 39 ← 40 ← ─┐ (01から40へ戻る)

**⏭ または ⏮キーを押したままにすると、約0.5秒間隔で、放送局をスキップします。**

# 臨場感を楽しむ

**本機のリッスンモードを使って、いろいろな種類の映像ソフトで、臨場感をお楽しみいただけます。**
**サラウンドモードを最高の状態でお使いいただくため、ご使用前に、スピーカーの設定を行ってください。** →25

## サラウンドモードの種類

### マルチチャンネルサラウンド(SRS Circle Surround II ™)

SRS Circle SurroundII™はCS-6.1™によりCS-5.1™の機能を改善し、ステレオソースまたは在来のサラウンド化されたビデオソースを多重チャンネルサラウンドチャンネルでの再生を可能にしました。すでに多重スピーカーによりドルビーデジタルサウンド/DTS多重チャンネルサウンドを楽しんでいると思いますが、これからはオーディオCD、MD、放送およびホームシアターを多重スピーカーで楽しむことができます。SRS Circle Surround IIにより新しいタイプの音響を発見することができます。
CSシステムにより比較的狭い部屋に多重チャンネル再生装置(スピーカー)を設置することができます。このシステムにより聴取者が演奏者の間にいるような環境を作りだし、さらにハイファイの音響、そしてサラウンド化された在来ビデオの品質を著しく向上させます。
CSデコーダーはSRS Technologies FocusとTruBassの機能を持ち、Focusは電子的に音響ステージをスピーカー位置から適切な位置に持ち上げます。TruBassはサブウーファーを使用することなく小口径のスピーカーで深く、重厚な低音を作り出します。

Circle Surround IIと (●)® 記号は SRS Labs, Inc. の商標です。Circle Surround II技術は SRS Labs, Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。

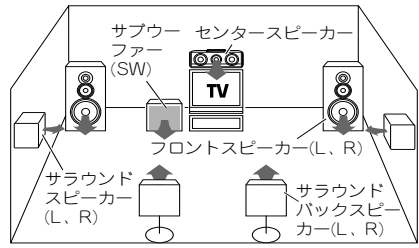
「DTS」、「DTS-ES Extended Surround」及び「Neo:6」はデジタルシアターシステムズの商標です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。DOLBY、PRO LOGIC、SURROUND EX及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

Lucasfilm及びTHXは、Lucasfilm, Ltd.の商標または登録商標です。「Surround EX」はTHXとドルビーラボラトリーズの技術により共同開発されました。「Surround EX」はドルビーラボラトリーズの登録商標であり、版権が所有されています。これらの商標は許可のもとに使用されています。

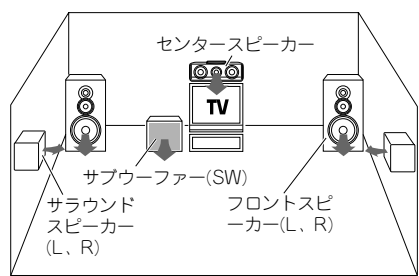
### DTS-ES

DTS-ES(Extended Surround)は 従来の5.1chのサラウンドを発展させ、バックサラウンドチャンネルが加わった6.1chサラウンド方式です。DTS-ESフォーマットはDVD, CD または LD等のメディアにあらかじめ記録され、完全に独立したバックサラウンドを持つDTS-ES Discrete 6.1 と マトリクス技術を駆使し左右のサラウンドチャンネルに埋め込まれたバックサラウンドを再生する DTS-ES Matrix 6.1 の2つのモードがあり、どちらも従来の5.1chフォーマットとの互換性を完全に持ちます。加えられたバックサラウンドチャンネルによる6.1chサラウンド再生は 後方からの音像定位感が増し、より自然な臨場感、音響効果をもたらします。DTS-ES 技術を使って記録されたプログラムソースには Discrete と Matrix のモードを動作させる情報もあわせて記録されていて、この製品は自動的にモードを選択します。

NEO:6はDTS社が開発した新しい技術で、高精度のマトリクス処理技術により2チャンネル信号から臨場感あふれる高品位な 6チャンネルサラウンドを楽しむことが可能です。NEO:6には映画を楽しむための "CINEMA" モードと音楽を楽しむための "MUSIC" モードの2つのモードがあります。

*このモードではオプション

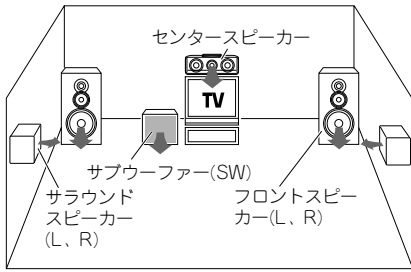
*LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
DTSには.1またはLFEチャンネルがあります。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに“**LFE**”表示が点灯します。

### DSPモード

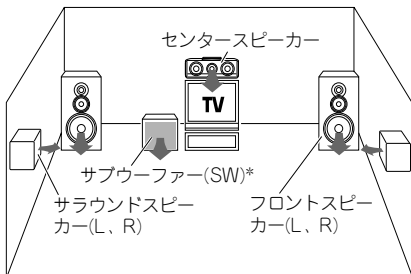
DSP(デジタルシグナルプロセッサー)サラウンドモードは、ソースに合わせて劇場やコンサートホールなどの雰囲気を選択することができます。CDプレーヤーやテレビ、FMラジオなどのステレオ信号を入力しているときに有効です。
コンサートやスポーツなどをよりいっそうお楽しみいただけます。

### DSPについて

通常音質は周囲の環境、特に残響音によって左右されます。DSPは入力ソースに、その音質をそこなわず、コンサートホールなどの残響音を加えるものです。

## Dolby PRO LOGIC II

この新しいサラウンドシステムは、特に空間的な広がりや指向性、音の明瞭さに重点をおいて設計されています(DOLBY SURROUNDマークのあるビデオやレーザーディスクソフト等)。すぐれたフィードバックロジック設計を内蔵し、サラウンドやステレオのマトリックスデコーディング、全帯域サラウンド出力が特長です。本機にプログラムされているPRO LOGIC IIモードは、MOVIE、MUSIC、PRO LOGICの3種類です。PRO LOGIC IIのMOVIEモードには、計算された質の高いサラウンドサウンドを再生するようプログラムされています。一方MUSICモードはサウンド空間を好みに合わせて最善の状態に調整できるよう、「Dimension」「Center Width」「Panorama」モードといったコントローラが用意されています。「Dimension」はサウンド空間の状態を前後の方向へ調整し、「Center Width」は左右およびセンタースピーカーのバランスを調整します。「Panorama」はサラウンドスピーカーを含めて前面のステレオ感を大きく拡大し、部屋全体を使って「音に包まれる」ような感覚を味わうことができます。

## Dolby Digital

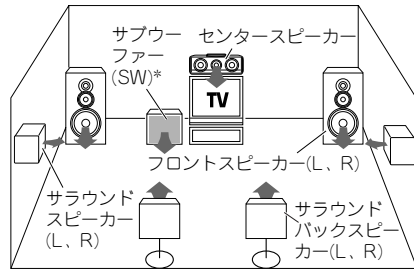
ドルビーデジタルサラウンドモードでは、ドルビーデジタルプログラムソース(DOLBY DIGITALマークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなど)からの5.1チャンネルのデジタル入力を、デジタルサラウンドサウンドでお楽しみいただけます。今までのドルビーサラウンドと比べて、ドルビーデジタルモードは、音質、空間的な広がり、そしてダイナミックレンジの面で、はるかに優れた効果を演出します。

ご注意
5.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドサウンドを聴くためには、フロントスピーカー(左右)、センタースピーカー、サラウンドスピーカー(左右)、サブウーファーを接続する必要がありますが、本機はフロントスピーカーだけを接続していても、ドルビーデジタルやドルビープロロジックがプログラムされているソースをお楽しみいただけます。

*このモードではオプション

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに"**LFE**"表示が点灯します。
ドルビーデジタルサウンドトラックは、独立して低周波数チャンネルを持っていますが、サブウーファーを接続すると、他のサラウンドモードにおいても、低音の音質をよくすることができます。

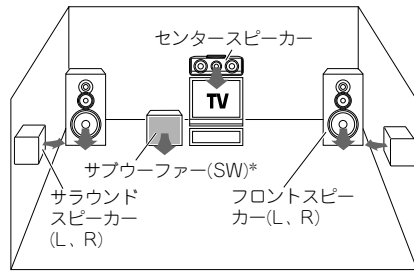
## Dolby Digital EX

Dolby Digital EXはDolby Digitalの延長線上の技術です。Dolby Digital EXは6.1チャンネルのソースから各チャンネルが音声帯域全体をカバーする6つの出力チャンネルを再生します。これはマトリクスデコーダーを使い2つのサラウンドチャンネルから3つのサラウンドチャンネルをとりだすことにより実現されます。各サラウンドチャンネルはサラウンドレフト、サラウンドライトおよびサラウンドバックでそれぞれのスピーカー群を駆動します。背後にサラウンドバックスピーカーを置くことを想像してみて下さい。これにより音に包まれる、または飛び回る音を再現することができ、より自然な音響効果を楽しむことができます。Dolby Digital EXはDolby Digital Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックの再生に適しています。Dolby Digital Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックはDolby Digital EXを作動させるためのフラッグ(符合)もあわせて録音されていますが、2001年以前に発売されたCD,DVDまたはLDはこのフラッグが録音されていないため手動でリッスンモードを設定しなければならないものもあります。

ご注意
6.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドサウンドを聴くためには、フロントスピーカー(左右)、センタースピーカー、サラウンドスピーカー(左右)、サラウンドバックスピーカー、サブウーファーを接続する必要がありますが、本機はフロントスピーカーだけを接続していても、ドルビーデジタルサラウンドがプログラムされているソースをお楽しみいただけます。

*このモードではオプション

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに"**LFE**"表示が点灯します。
ドルビーデジタルサウンドトラックは、独立して低周波数チャンネルを持っていますが、サブウーファーを接続すると、他のサラウンドモードにおいても、低音の音質をよくすることができます。

## DVD6チャンネルモード

お手持ちのDVDプレーヤーがDVD6チャンネル出力に対応している場合は、DVD6チャンネル接続をすることによって、より効果的なサラウンドサウンドを楽しみいただけます。

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。

## THX

映画のサウンドトラックはダビングステージと呼ばれる特別な映画館で、同じような装置および環境の映画館で再生されることを目的としてミキシングされます。同じサウンドトラックがLD、ビデオテープ、DVD等に録音されますが、ホームシアター環境に適するように変更されていません。
THXの技術者はホームシアターで発生する音色および空間的な差異を最小にすることで、映画館でのサウンドを正確にホームシアターで再現できる技術を開発し、特許をとりました。映画館で再生することを意図とした映画を見ている場合はTHXを起動して下さい。本機のTHX表示が点灯すると、次のTHXの機能が映画再生モード（例：Dolby Digital+THX、DTS+THX、THX Surround EX他）で作動します。

### Re-Equalization (Re-EQ)

映画のサウンドトラックは広い映画館で専用のシステムを使って再生する目的で録音されているため、家庭用の機器で再生すると耳障りになります。Re-Equalizationは、ご家庭で映画のサウンドトラックを楽しむときに、この耳障りな音を調整し、ご家庭の環境に合わせます。

### Timbre Matching

人の耳は、音のくる方向によって音に対する知覚が変わります。映画館では多数のサラウンドスピーカーを使っているので音に包まれますが、ホームシアターでは2台のサラウンドスピーカーしかありません。Timbre Matching機能はサラウンドスピーカーに送られる信号にフィルターをかけ、フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの音色特性を合わせることにより、フロントスピーカーからサラウンドスピーカーへの音の動きをスムーズにします。

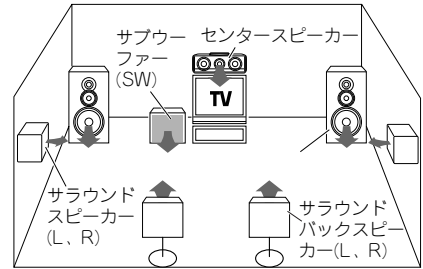
### Adaptive Decorrelation

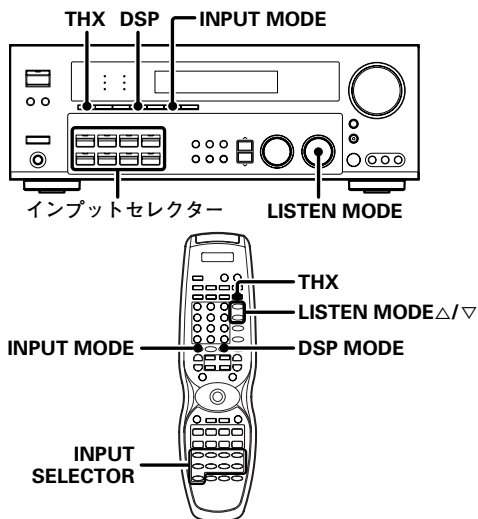
映画館では多数のサラウンドスピーカーによって音に包まれる体験ができますが、ホームシアターでは通常2台のサラウンドスピーカーしかありません。2台のサラウンドスピーカーでは
音はヘッドフォーンで聴くように聞こえ、音の広がり、および音に包まれることはできません。サラウンドスピーカーからの音はサラウンドスピーカー間の中間位置から離れると、近くのスピーカーの音にに吸収されてしまい聞き分けることができなくなります。Adaptive Decorrelationは他のサラウンドチャンネルの音との時間軸と位相を少し変化させます。これにより聴く位置が広がり、2台のサラウンドスピーカーで映画館と同じような音の広がり楽しめます。

### THX Select

THX Selectのロゴが付いている全てのホームシアター用の機器は、上記のすべての機能を備え、厳格な品質検査および性能検査を受けています。検査は高品質を維持するためにデジタルおよびアナログ領域の数百の項目に渡り、お客様がTHX Selectのロゴが付いている機器を購入後の長い期間に渡りその性能を保証します。このようにTHX Selectのロゴが付いている機器はプリアンプ、パワーアンプを含む、広範囲にわたる厳格な検査を受けています。

## THX Surround EXモード

THX Surround EX-Dolby Digital Surround EXはドルビーラボラトリーとルーカスフィルムのTHX部門が共同で開発した技術です。
映画館ではDolby Digital Surround EX技術を使いミキシングの際に追加されたチャンネルを再生することができます。このチャンネルはサラウンドバックと呼ばれ、現在の左右およびセンターのフロントスピーカー、左右のサラウンドスピーカーおよびサブウーファーチャンネルに加えて、サウンドトラックを楽しむ人の後ろにスピーカーを置きます。この追加されたチャンネルはサウンドトラックを聞く人に、より繊細な後方サウンドイメージを与えることができ、以前に経験したことが無いような深く、広がりのあるサウンドを楽しむことができます。
Dolby Digital Surround EX技術を使って制作された映画が一般消費者市場で販売される場合にはDolby Digital Surround EXのロゴがパッケージに付いています。この技術を使って制作された映画の一覧表はドルビーラボラトリーのウェブサイトhttp://www.dolby.comで見ることができます。
THX Surround EXのロゴの付いているA/Vレシーバー、およびコントローラーだけがTHX Surround EXモードで、この新技術を家庭で忠実に再生することができます。
本機はDolby Digital Surround EXでエンコードされていない5.1チャンネルのサウンドをTHX Surround EXモードで再生することができます。このような場合は、サラウンドバックチャンネルは再生するプログラムに左右され、サウンドトラック、または個人差によりあまり好ましくないサウンドになることがあります。

## サラウンド再生

DTSリッスンモードはDTSマークの付いたCD、DVDまたはLDのサウンドソースを再生できます。DOLBY DIGITALリッスンモードは DOLBY DIGITAL マークの付いたDVDまたはLDの再生およびドルビーデジタルフォーマットのデジタル放送を受信する時に使います。DOLBY PRO LOGICリッスンモードは DOLBY SURROUND マークの付いたビデオDVDまたはLDを再生する時に使用できます。
SRSサークルサラウンド(CSII)リッスンモードはステレオソースを多重チャンネルのサラウンドサウンドとして楽しめます。

### 準備しましょう

- 使用する関連機器の電源をオンにする。
- サラウンド再生の準備をする(「スピーカーの設定をする」)。 →25
- **インプットセレクター**キーで再生したい入力ソースを選ぶ。
- INPUT MODEキーで、再生したいソースのインプットモード(アナログまたはデジタル)を選ぶ。 →13
- インプットモードをアナログに設定するとDTSソースを再生したときにノイズがでることがあります。

**1** *ビデオソフトを再生する。*

**2** *LISTEN MODEつまみまたはLISTEN MODE △/▽キーでリッスンモードを選ぶ。*

リッスンモードの設定は、それぞれの入力で独立して記憶しています。インプットモードがフルオートに設定されていると("AUTO DETECT"が点灯)、入力信号のタイプやスピーカー設定の内容に合うリッスンモードが自動的に選ばれます。

**LISTEN MODEつまみを回すたび、またはLISTEN MODE △/▽キーを押すたびに以下のように設定が変わります。**
**このとき、以下のリッスンモードの中から、現在の入力信号の種類やスピーカーの設定で再生できるモードのみが選べます。**

#### *DOLBY DIGITALまたはDOLBY DIGITAL EX信号を入力しているとき:*

(DOLBY DIGITALまたはPRO LOGICのいずれかの表示が点灯します。)

① **DOLBY DIGITAL** : DOLBY DIGITALサラウンド 。(DOLBY DIGITAL表示が点灯)
② **DOLBY D EX** : DOLBY DIGITAL EXサラウンド 。
③ **PL II MOVIE** : PRO LOGIC IIサラウンド MOVIEモード。(PRO LOGIC表示が点灯)
④ **PL II MUSIC** : PRO LOGIC IIサラウンド MUSICモード。(PRO LOGIC表示が点灯)
⑤ **PRO LOGIC** : PRO LOGIC IIサラウンド PRO LOGICモード。(PRO LOGIC表示が点灯)
⑥ **STEREO** : 通常のステレオ再生。

**DOLBY DIGITALを選んだとき**
DOLBY DIGITAL の文字が表示されます。

SP AUTO DETECT DOLBY DIGITAL
DOLBY DIGITAL

#### *DTSまたはDTS-ES(マトリックスまたはディスクリート)信号を入力しているとき:*

① **DTS** : (DTS表示が点灯)
② **DTS-ES MATRIX** : (DTSおよびMATRIX表示が点灯)
③ **DTS-ES DISCRETE** : (DTSおよびDISCRETE表示が点灯)
④ **STEREO** : 通常のステレオ再生。

#### *DOLBY DIGITAL、DTS以外のアナログ信号またはデジタル信号のとき:*

① **PL II MOVIE** :PRO LOGIC IIサラウンド MOVIEモード。(PRO LOGIC表示が点灯)
② **PL II MUSIC** :PRO LOGIC IIサラウンド MUSICモード。(PRO LOGIC表示が点灯)
③ **PRO LOGIC** :PRO LOGIC IIサラウンド PRO LOGICモード。(PRO LOGIC表示が点灯)
④ **NEO:CINEMA** :NEO:6サラウンド。(NEO:6表示が点灯)
⑤ **NEO : MUSIC** :NEO:6サラウンド。(NEO:6表示が点灯)
⑥ **CS II CINEMA** :CS 6.1サラウンド。(CS II表示が点灯)
⑦ **CS II MUSIC** :CS 6.1サラウンド。(CS II表示が点灯)
⑧ **CS II MONO** :CS 6.1サラウンド。(CS II表示が点灯)
⑨ **STEREO** :通常のステレオ再生。(STEREO表示が点灯)

- ドルビーデジタルやDTS信号で、現在のスピーカー設定以上のチャンネル数が入力された場合は、自動的にダウンミキシング機能が働き、現在の設定に合わされます。

**3** *DSPモード(ディジタルシグナルプロセッサー)。*

DSPはオリジナルの音楽またはビデオの品質を劣化させることなく再生することができます。

❶ **DSPまたはDSP MODEキーを押すと現在のDSP MODEの設定が表示されます。**

❷ **キーを押すたびに以下のように切り換わります。**

① **ARENA** :DSPサラウンド ARENAモード。
② **JAZZ CLUB** :DSPサラウンド JAZZ CLUBモード。
③ **THEATER** :DSPサラウンド THEATERモード。
④ **STADIUM** :DSPサラウンド STADIUMモード。
⑤ **DISCO** :DSPサラウンド DISCOモード。

- DSPモード選択は約3秒間表示されます。

**4** *THXモード。*

THXリッスンモードにより6.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドサウンドを楽しむことができます。好みに合わせてDolby Digital EXとTHXリッスンモードを使い分けてください。

**THXキーを押して以下の設定を選択する。**

① **THX Sur EX ON** ：ドルビーデジタル5.1chフォーマットのサウンドトラックを検出するとTHXサラウンドEX機能が起動されます。（THX表示が点灯）
② **THX Sur EX AUTO** ：Dolby Digital-Surround EXのサウンドトラックを検出するとTHXサラウンドEX機能が起動されます。（THX表示が点灯）
③ **THX ON** ：THXモードがONのとき。（THX表示が点灯）
④ **THX ON** ：THXモードがOFFのとき。（THX表示が消灯）

- THXサラウンドEX機能が動作していることはTHX表示がディスプレイ内で点灯することで確認できます。
- サラウンドバックスピーカーがOFFの場合はTHX Sur ONおよびTHX Sur EX AUTOメニューは使用できません。
- THX設定はインプットチャンネルごとに個別に設定できます。
- CS II、PL II MUSIC、NEO:MUSIC、ACTIVE EQまたはSPEAKER EQがオンの 場合、THX機能は動作しません。

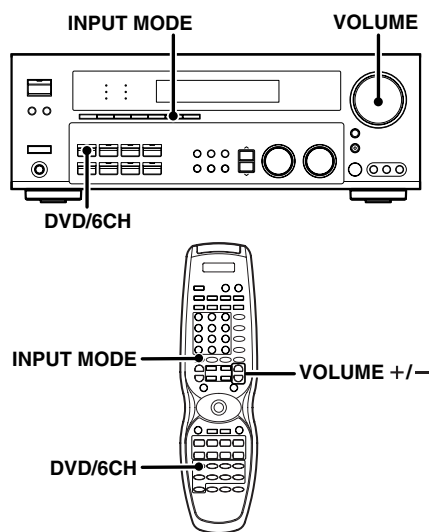
**5** *音量を調節する。*

ご注意
- 入力信号の種類や設定したスピーカーのタイプによって、選ぶことができないモードがあります。
- サラウンド効果がうまく得られない場合や、お好みのモードが選べない場合は、スピーカーの設定、インプットモードの設定をご確認ください。
- ドルビーデジタルサラウンドはもちろん、ひとつの機器ですべてのリッスンモードを楽しみたいときは、ドルビーデジタルフォーマットに対応した再生機器をご使用ください。
- **Dialogue Normalization (Dial Norm)**（ダイアログ ノーマライゼーション）はドルビーデジタルの特徴で、自動的にサラウンドサウンド全体のレベルを一定に保ちます。

AUTO DETECT　DOLBY DIGITAL
DIALNORM OFFSET

Dolby Digitalのソースの中には再生中に“DIALNORM OFFSET xxdB”のメッセージが表示されるものがあります。これはサウンドトラックが通常のレベル高く（低く）録音されていることを表し、xxがその程度を示します。
例として、“DIALNORM OFFSET +4dB”が表示された場合は、再生レベルが通常より4dB高いことを示します。再生レベルを通常のレベルにしたいときはボリュームレベルを4dB下げてください。

## *DVD 6チャンネル*

6（5.1）チャンネル出力を持つDVDプレーヤーを使って、サラウンドサウンド再生を楽しむことができます。
サラウンドソースを再生することができるDVDプレーヤーを接続することができます。

*準備しましょう*
- お手持ちのDVDプレーヤーをDVD/6CHのインプット端子に接続する。
- 使用する関連機器の電源をオンにする。
- サラウンド再生の準備をする。 →25

**1** *入力ソースとしてDVD/6CHキーを押す。*

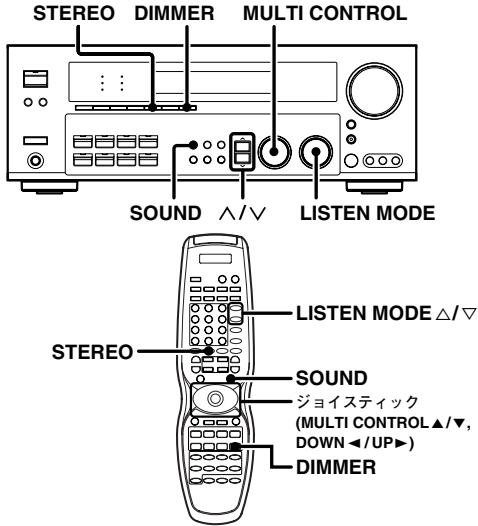
- “DVD/6CH”を選んだときにスピーカーBが選ばれているときは自動的にスピーカーBをオフにし、スピーカーAがオンになります。

**2** *INPUT MODEキーで“6CH INPUT”を選ぶ。*

**3** *DVDプレーヤーを再生する。*

**4** *音量を調節する。*

- INPUT MODEが6CH INPUTモードになっていると、TONEや各スピーカーの音量レベルを調節することはできません。各スピーカーの音量はDVDプレーヤーで調節してください。パワードサブウーファーの音量はサブウーファーについている音量調節つまみで調節できます。

# 便利な機能

## 音を調整するには

再生中にお好みで音を調整することができます。

❶ **SOUNDキーを押し、要求項目が表示されるまで∧/∨キーまたはジョイスティック(◄/►)を押し続ける。**

**∧/∨キーまたはジョイスティック(◄/►)を押すたびに次のように切り換わります。**
**このとき、モードによっては表示されない項目があります。**

① **CNTR**（センタースピーカーレベルの調整）*
② **SR**（サラウンド右スピーカーレベルの調整）*
③ **SBR**（サラウンドバック右スピーカーレベルの調整）*
④ **SBL**（サラウンドバック左スピーカーレベルの調整）*
⑤ **SL**（サラウンド左スピーカーレベルの調整）*
⑥ **SUBW**（サブウーファーレベルの調整）*
⑦ **INPUT**（インプットレベルの調整ーアナログモードのみ） →29
⑧ **MIDNIGHT**（ミッドナイトモードのオン/オフードルビーデジタルモードのみ）
⑨ **PANORAMA**（パノラマモードのオン/オフ）**
⑩ **DIMENSION**（ディメンション調節）**
⑪ **CENTER WIDTH**（センター幅調節）**
⑫ **CENTER FOCUS**（中央焦点調整）***
⑬ **CSII DLY**（後方スピーカー遅延調整）***
⑭ **CSII GAIN**（入力利得調整）***
⑮ **TruBass**（TruBass 調整）***

* SOUND モードでの設定は一時的な設定です。電源のオン/オフや入力の切り換えで、最初の"スピーカーの設定をする"で設定 した値に自動的に戻ります。
** PRO LOGIC II MUSIC モードのみ。
*** CS IIモードのみ。

❷ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってレベルを調節する。**

● 調整項目は約8秒間表示されます。

## ミッドナイトモード（ドルビーデジタルモードのみ）

夜中に映画を見るときなど、音量をあまり上げられないことがあります。このミッドナイトモードを選ぶと、ドルビーデジタルの映像ソフトであらかじめ指定されている部分（急に音量が大きくなるシーンなど）だけを、音声信号レベルの上限から下限の幅を圧縮し、指定されていない部分との音量差を少なくします。これにより、小さな音量でもすべての部分が聴きやすくなります。お好みでお楽しみください。

❶ **SOUNDキーを押し、"MIDNIGHT" が表示されるまで∧/∨キーまたはジョイスティック(◄/►)を押し続ける。**

● CD/DVD、DVD/6CH, VIDEO 2またはVIDEO 3 の入力で、サラウンドモードがドルビーデジタルのときのみ選べます。

❷ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってON/OFFを選ぶ。**

● 調整項目は約8秒間表示されます。
● ドルビーデジタルの映像ソフトには、ミッドナイトモードに対応していないものもあります。

## PANORAMAモード（PRO LOGIC II MUSICモードのみ）

PANORAMA モードを使って、「音に包まれる」感覚を楽しめます。

❶ **SOUNDキーを押し、"PANORAMA" が表示されるまで∧/∨キーまたはジョイスティック(◄/►)を押し続ける。**

❷ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってPANORAMA ONまたはOFFを選ぶ。**

① **PANORAMA ON** ：パノラマモードがオンになる。
② **PANORAMA OFF** ：パノラマモードがオフになる。

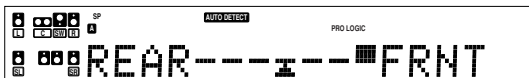
## DIMENSIONモード（PRO LOGIC II MUSICモードのみ）

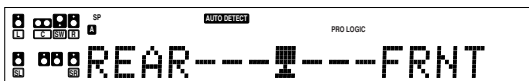
DIMENSION モードの調節で、全スピーカーのバランスを好みに合わせて変えることができます。

❶ **SOUNDキーを押し、"DIMENSION"が表示されるまで∧/∨キーまたはジョイスティック(◄/►)を押し続ける。**

❷ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってサウンド空間を前後に調節する。**

サウンド空間が前寄りになる

↓

サウンド空間がニュートラルになる

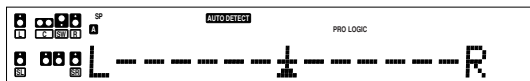
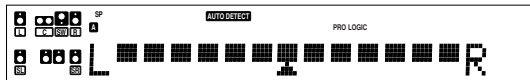
↓

サウンド空間が後ろ寄りになる

## *CENTER WIDTHモード(PRO LOGIC II MUSICモードのみ)*

PLII MUSICリッスンモードではCENTER WIDTH設定モードを使ってセンターチャンネルのサウンドを左右のフロントスピーカーに振り分けることができ、広がりのある音を楽しむことができます。

❶ **SOUNDキーを押し、"CENTER WIDTH"が表示されるまで∧/∨キーまたはジョイスティック(◀/▶)を押し続ける。**
- CENTER WIDTH表示が表示窓に流れます。
- センタースピーカーがオフのとき、この機能は働きません。

❷ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使って左右およびセンタースピーカーの出力を調節する。**

センター成分がセンタースピーカーからのみ聞こえる

センター成分が左右スピーカーからのみ聞こえる

- 他の設定を選ぶと、センタースピーカー、左右スピーカーからのセンター成分が、さまざまな組み合わせのスピーカーから同時に聞こえます。

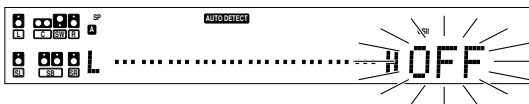
## *サークルサラウンドIIモード*

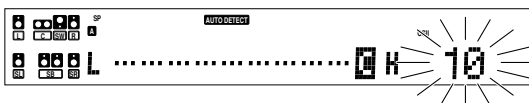
サークルサラウンドIIモードを選択するとステレオソースからのマルチサラウンド音を楽しむことができます。

**LISTEN MODEつまみ、またはLISTEN MODE △/▽ キーを使ってCS IIを選択する。**

## *CENTER FOCUSモード(CS IIモードのみ)*

センターフォーカス高さ調整は、CS II CINEMA/MUSIC/MONOを選択した場合強調されたサウンドを楽しめます。この機能により聴取者はセンターからの音が自然な高さから聞こえてくるように調整できます。

❶ **SOUNDキーを押し、"CENTER FOCUS"が表示されるまで∧/∨キーまたはジョイスティック(◀/▶)を押し続ける。**

❷ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってセンターの高さを設定する。**

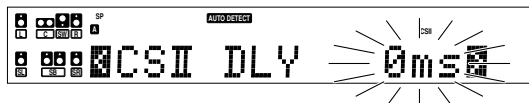
- 設定できる範囲は0～10mです。

- センタースピーカーがオフの場合はCENTER FOCUS機能は使えません。

## *CS II REAR DELAY調整モード(CS IIモードのみ)*

CS II 後方スピーカー遅延調整により後方スピーカーからより良いサラウンド効果が得られます。

❶ **SOUNDキーを押し、"CSII DLY"が表示されるまで∧/∨キーまたはジョイスティック(◀/▶)を押し続ける。**

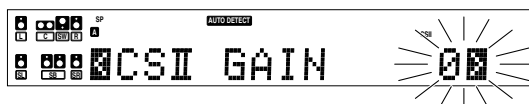
❷ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を後方スピーカー遅延レベルを設定する。**

- 設定できる範囲は0～25msまでです。

## *CS IIゲイン調整モード(CS IIモードのみ)*

CS II GAINはサークルサラウンドII処理のためのインプットゲインの調整を可能にします。

❶ **SOUNDキーを押し、"CSII GAIN"がディスプレイに表示されるまで∧/∨キーまたはジョイスティック(◀/▶)を押し続ける。**

❷ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってインプットゲインを設定する。**

- 設定できる範囲0～18までです。

## TRU BASS調整モード（CS IIモードのみ）

トゥルーバス調整モードにより多彩なスピーカーを使用して深く、重厚な音を出すことができます。

❶ **SOUNDキーを押し、"TruBass"が表示されるまで∧/∨キーまたはジョイスティック(◀/▶)を押し続ける。**

❷ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使って以下を選択する。**

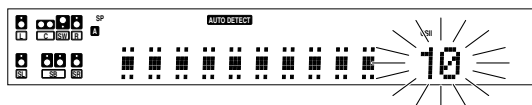
① TruBass OFF
② TruBass SW
③ TruBass LR
④ TruBass SW + LR

- ②、③または④が選択されると、トゥルーバススピーカーサイズとレベルが選択可能になります。

❸ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使って以下のTruBassスピーカーサイズを選択する。**

① TruBass LARGE
② TruBass MID
③ TruBass SMALL

❹ **MULTI CONTROLつまみ、またはジョイスティック(▲/▼)を使ってTruBassレベルを調整する。**

- 調整できる範囲は0（TruBass OFF）から10の間です。

## ディスプレイの明るさを調節する

本機のディスプレイの明るさを選べます。部屋を暗くして映画を見たり、音楽を聴くときに便利です。

**DIMMERキーを押すたびに3段階で切り換わります。お好みの明るさにしてください。**

① 明るい
② 普通
③ 暗い

## 96kHz リニアPCMの再生

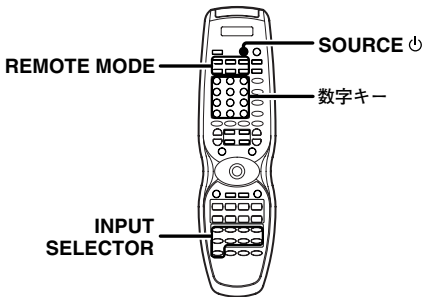
96kHz リニアPCMに対応しています。96kHz DVDをお聞きになる場合はリッスンモードを"STEREO"にしてください。

- **FULL AUTO**（フルオート）入力モードでは、リッスンモードは自動的にSTEREOに切り換わります。
- **DIGITAL MANUAL**（デジタルマニュアル）入力（STEREO以外のモードが選ばれているとき）では、"FS 96kHz"が表示され、スピーカーからは音が聞こえません。
  LISTEN MODEまたはSTEREOキーを押すとSTEREOモードに切り換わり、スピーカーから音が聞こえます。

# 他の機器のリモコンの基本操作

**本機に付属のリモコンで、他社製の機器でもセットアップコードをリモコンに登録すれば操作が可能になります。**

> *電池が消耗したときのご注意*
>
> 操作できる距離が短くなったら、2本とも新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り替えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。

## *お手持ちの機器のセットアップコードを登録する*

### 1 *登録する機器のセットアップコードを探す。*

- 登録する機器のセットアップコードは、セットアップコードリストの中から探してください。 →45
  例：ケンウッド製のDVDを登録する場合、"805"を入力する

| 入力 | 機器 | メーカー名 | コード | キー |
|---|---|---|---|---|
| (DVD) | DVDプレーヤー | ケンウッド | 805,808 | DVD |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

### 2 *REMOTE MODE(DVD、CBL、DSS/SAT、VCR、TV、OTHERS)キーに機器を登録する。*

**❶ DVD、CBL、DSS/SAT、VCR、TVキーに登録する。**

**SOURCE ⏻ キーを押し続けながら、数字キーを使って設定コードを入力する。**

- 例：ケンウッド製のDVDプレーヤーを登録するため"805"を入力する。

RCV

- 無効なキーが押された場合は"ERROR"が表示されます。

**❷ OTHERSキー使うと他のDVD、CBL、DSS/SAT、VCRまたはTVを操作することができます。**

**OTHERSキーに登録する。**

**OTHERSキーを押し続けながら、数字キーを使って設定コードを入力する。**

- 例：ケンウッド製のプレーヤーを登録した後でパナソニック製のプレーヤーを登録するために"804"を入力する。
- 無効なキーが押された場合は"ERROR"が表示されます。

### 3 *登録したREMOTE MODEキーを押し、SOURCE⏻キーを押して、コントロールしたい機器の電源がオンになるかをチェックする。*

**機器の電源がオンにならず、また他の設定コードがある場合はもう一度他の設定コードを登録する。**

- コントロールする機器の電源がすでにオンになっていた場合は**SOURCE ⏻** キーを押すことによりオフとなります。

### 4 *手順 2～3を繰り返し、追加したい機器を登録する。*

## *REMOTE MODEキーとINPUT SELECTORキーを関連づける*

この操作はオプションです。INPUT SELECTORキーとREMOTE MODEキーを関連づけすることにより、下記例のような便利な機能が使えます。

- 例：INPUT SELECTOR（VIDEO 1)キーとREMOTE MODE(DVD)キーを関連づけする。

**❶ 設定コードを入力した後、SOURCE ⏻キーを押し続けながらREMOTE MODE（DVD）キーを押す。**

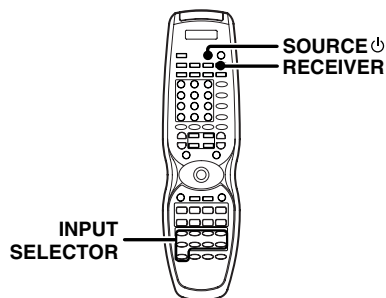
**❷ ❶の操作からSOURCE ⏻を離さずにINPUT SELECTOR (VIDEO 1)キーを続けて押す。**

- 関連づけした後は、リモコンのINPUT SELECTOR（VIDEO 1)キーを押すとリモコンはDVDのREMOTE MODEになります。また、リモコンのDVDキーを押すと本機のINPUT SELECTORがVIDEO 1に切り換わります。
- 他のINPUT SELECTORキーを関連づけるためには上記の手順❶から❷を繰り返す。

お知らせ

各セットアップコードは多数の機器で動作するように設計されていますが、機器によっては動作しないものもあります。（また、セットアップコードによっては、利用できる機能のうち、いくつかしか操作できないものもあります。）

## 他の機器を操作する

リモコンに登録した機器や、ケンウッド製のシステムコントロールコードで接続されている機器の電源を、リモコンでオン、オフし、操作することができます。

**1 INPUT SELECTOR(インプット セレクター)キーを使って操作したい機器の接続されているインプットチャンネルを選ぶ。**

- INPUT SELECTOR(インプット セレクター)キーでインプットチャンネルを選ぶとレシーバーのインプットチャンネルは選ばれたインプットチャンネルになります。
- **リモコンに登録したテレビ、ビデオデッキ(VCR)、DVDプレーヤー、ケーブル(CBL)チューナーまたは衛星(DSS/SAT)チューナーを操作したいときは、手順2に進んでください。**
- **システムコントロールケーブルで接続されたCDプレーヤーやカセットデッキ、MDプレーヤーを操作したいときは手順3に進んでください。**

**2 SOURCE(ソース)⏻キーを押し、選んだインプットチャンネルに接続されている機器の電源をオンにする。**

- RECEIVER(レシーバー)キーを押すと、本機操作モードに戻ります。

**3 接続されている機器を操作するキーを押す。** →47

**リモートコントロールモードは選択されたモードのままになります。他の機器を操作する場合は❷と❸を繰り返して下さい。**

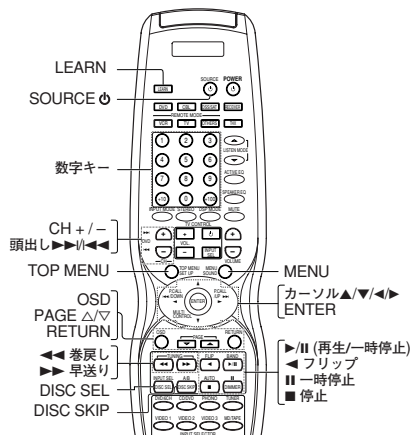
ご注意

システムコントロールコードで接続したケンウッド製のオーディオ機器を操作するときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。システムコントロールコードで接続していないときは、リモコンを操作したい機器に向けてください。

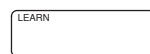
## 他の機器のリモコンコードを記憶させる

接続されている機器のリモコンコードをレシーバーのリモコンに記憶させることにより、機器を直接操作することができます。記憶したリモコンコードは内蔵のメモリーに記憶されます。

### キーに登録する

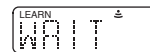
下図のキーにリモコンコードを記憶させることができます。

**❶ 記憶させたい機器のリモコンの赤外線送出口をレシーバーのリモコンの赤外線送出口に向ける。**

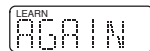
**❷ LEARN(ラーン)キーを押す。**

- レシーバーのリモコンが記憶モードになる。

**❸ 本機リモコンの登録したいREMOTE MODE(リモート モード) (DVD、CBL、DSS/SAT、VCR、TV、OTHERS(アザーズ))キーのいずれかを選択する。**

**❹ 本機リモコンの記憶させたいのキーを押す。**

**❺ 他の機器のリモコンの本機リモコンに記憶させたいキーを押す。**

- リモコンコードが本機のリモコンに送信されます。

- リモコンコードの記憶が終了すると“OK”が表示されます。

- リモコンコードを記憶できなかった場合“AGAIN(アゲイン)”が表示されます。この場合は❷から❺までを繰り返して下さい。

- リモコンコードが記憶できない状態が何回か続くと“ERROR(エラー)”が表示されます。この場合は❷から❺までを繰り返して下さい。
- LEARN(ラーン)モードのメモリーがいっぱいの場合は“FULL(フル)”が表示されます。

**❻ 他の機器のリモコンコードが本機のリモコンのキーに記憶されます。**

**❼ LEARN(ラーン)キーを押し、LEARN(ラーン)モードを終了する。**

## セットアップコード表

### テレビセットアップコード

| メーカー | セットアップコード |
|---|---|
| AKAI | 125 |
| BELL+HOWELL | 142 |
| CENTURION | 126 |
| CORONAD | 127 |
| DAEWOO | 136, 140, 141, 145 |
| EMERSON | 130, 131, 132, 133, 146 |
| FISHER | 119 |
| G.E. | 102, 122, 129 |
| GOLD STAR | 137, 148 |
| HITACHI | 114, 115 |
| JVC | 113 |
| KTV | 138, 139 |
| LOEWE | 123, 124 |
| MAGNAVOX | 109, 147 |
| MARANTZ | 121 |
| MITSUBISHI | 121 |
| PANASONIC | 111, 112, 122, 129 |
| PHILIPS | 109, 147 |
| PIONEER | 116 |
| PROSCAN | 117 |
| RADIOSHACK | 128 |
| RCA | 102, 103, 104, 105, 106, 126 |
| SAMSUNG | 134, 135 |
| SANYO | 119 |
| SEARS | 120 |
| SHARP | 110 |
| SONY | 101 |
| SYMPHONIC | 143, 144 |
| TOSHIBA | 120 |
| QUASAR | 111, 118 |
| ZENITH | 107, 108 |

### ケーブル(CBL)チューナーセットアップコード

| メーカー | セットアップコード |
|---|---|
| GEMINI | 218 |
| G.I. | 209 |
| HAMLIN | 210, 211, 234, 235 |
| JERROLD | 201, 202, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 233 |
| MACOM | 215, 216, 217 |
| MAGNAVOX | 236 |
| OAK | 212, 213, 214 |
| PANASONIC | 221, 222, 232 |
| PHILIPS | 219, 220, 237, 238, 239, 240 |
| PIONEER | 206, 207 |
| SAMSUNG | 223 |
| S. ATLANTA | 203, 230, 231 |
| TOCOM | 208 |
| ZENITH | 204, 205 |

### ビデオセットアップコード

| メーカー | セットアップコード |
|---|---|
| AIWA | 352 |
| AKAI | 354, 355, 356 |
| BELL+HOWELL | 351 |
| DAEWOO | 349 |
| EMERSON | 334, 335, 336, 337, 338 |
| FISHER | 330, 341, 342, 343 |
| G.E. | 307, 321 |
| GOLD STAR | 323 |
| GO_VIDEO | 347, 348, 353 |
| HITACHI | 307, 308, 328, 329 |
| JVC | 324, 325, 326, 327 |
| MAGNAVOX | 311, 312, 313 |
| MITSUBISHI | 315, 316, 317, 318, 357, 358 |
| NEC | 344, 345 |
| ORION | 335 |
| PANASONIC | 309, 310 |
| PHILIPS | 313 |
| QUASAR | 309, 310, 311, 312 |
| RCA | 308 |
| SAMSUNG | 332, 339, 340 |
| SANYO | 351 |
| SCOTT | 331 |
| SHARP | 319, 320 |
| SHINTOM | 333 |
| SONY | 301, 302, 303, 304, 305, 306 |
| SYNPHO | 346 |
| TEKNICA | 346, 350 |
| TOSHIBA | 314 |
| ZENITH | 322 |

### DVDプレーヤーセットアップコード

| メーカー | セットアップコード |
|---|---|
| HITACHI | 812 |
| JVC | 801 |
| KENWOOD | 805, 808 |
| MITSUBISHI | 810 |
| ONKYO | 815, 816 |
| PANASONIC | 804 |
| PHILIPS | 807 |
| PIONEER | 803 |
| PROSCAN | 811 |
| RCA | 811 |
| SAMSUNG | 814 |
| SONY | 802 |
| TOSHIBA | 806 |
| YAMAHA | 809 |
| ZENITH | 806, 813 |

### 衛星（DSS/SAT）チューナーセットアップコード

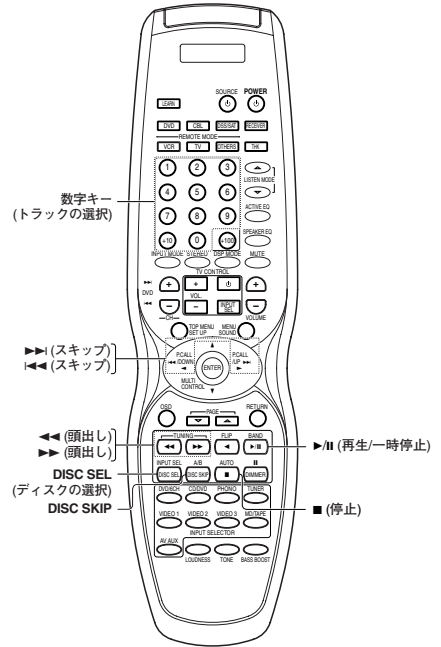
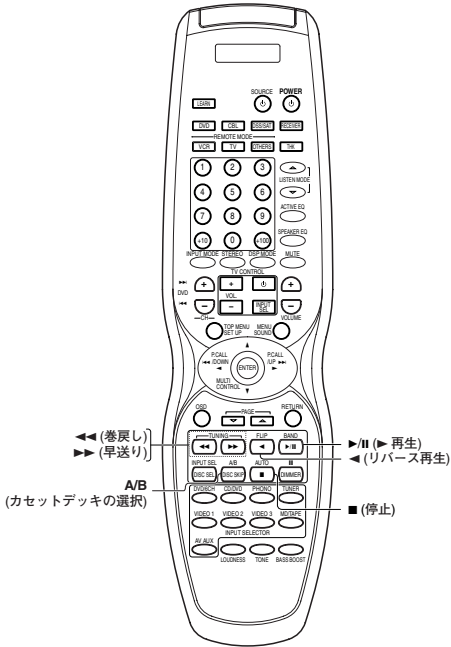
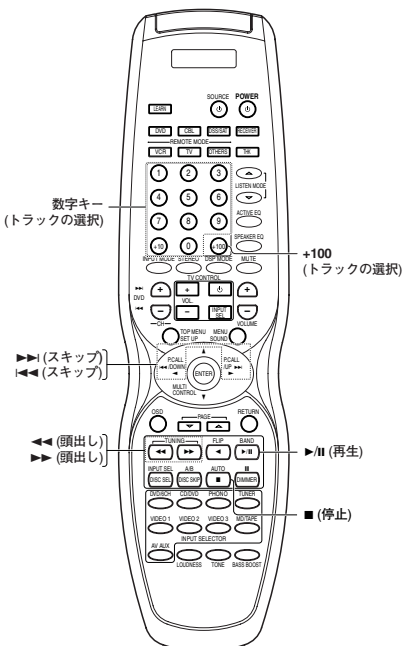
| メーカー | セットアップコード |
|---|---|
| ECHOSTAR | 903 |
| G.I. | 902 |
| HITACHI | 908 |
| HUGHES | 906 |
| PANASONIC | 905 |
| PRIMESTAR | 909 |
| RCA | 901 |
| SONY | 907 |
| TOSHIBA | 904 |

# カセットデッキ、CDプレーヤー、MDレコーダー操作

ケンウッドのシステムコントロール付きのカセットデッキ、CDプレーヤー、MDレコーダーに接続しているとき、下記のキーで基本操作ができます。

→ 24

## カセットデッキ操作キー

## CDプレーヤー操作キー

## MDプレーヤー操作キー

# 他の機器をリモコンで操作する

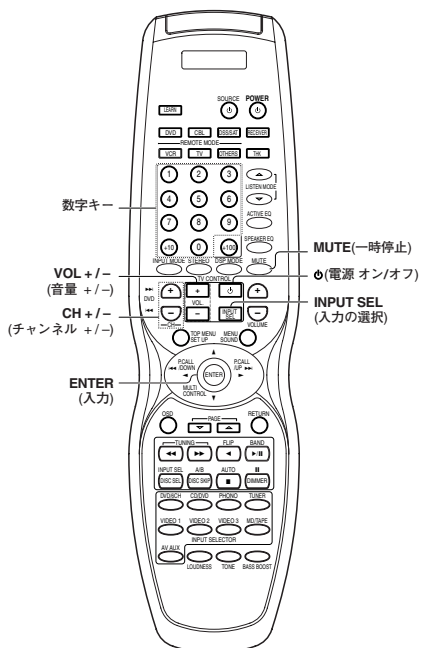
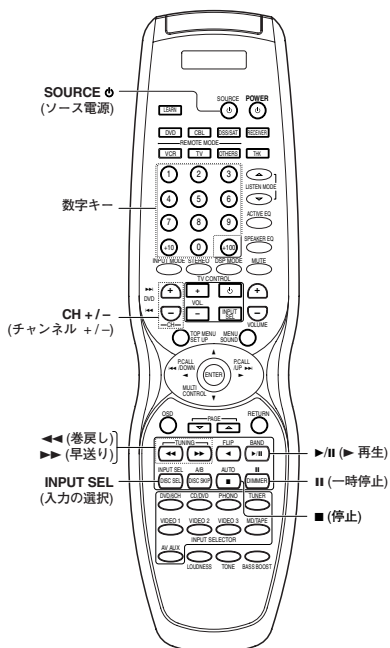
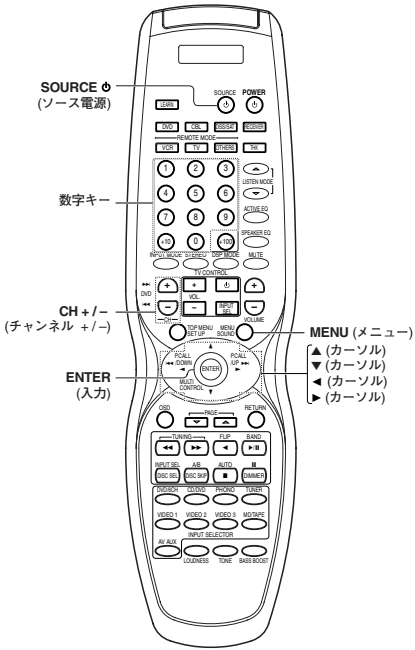
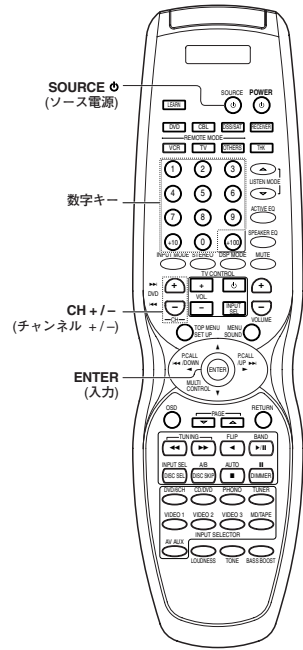
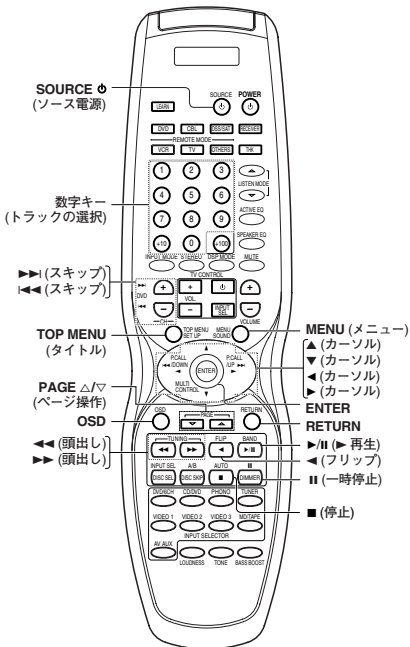
各機器の、リモコンで操作できる内容については、下記をご覧ください。

**❶ 操作したい機器のリモコンコードを記憶させたREMOTE MODE（DVD、CBL、DSS/SAT、VCR、TV）キーを押す。**

**❷ 以下の章を参考にして選択した機器の操作を行う。**

- 続けて複数のキーを操作するときは、1つのキーをしっかり押したあと1秒以上待ってから次のキーを押してください。
- 数字キーは、各機器に付属のリモコンの数字キーと同じ働きをします。

**本キーによりケンウッド製および設定コードにより事前に入力された他社製装置の基本操作を行えます。** →45

## テレビ操作キー

## ビデオ操作キー

## 衛星（DSS/SAT）チューナー操作キー

## ケーブル(CBL)チューナー操作キー

## DVDプレーヤー操作キー

# 故障かな?と思ったら

### マイコンをリセットするには

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。この場合、次の手順をお試しください。マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

**電源プラグをコンセントに差し込んだままで、POWER(パワー) ON/OFFキーをオフにして、ON/STANDBY(スタンバイ)⏻キーを押しながら、POWER(パワー) ON/OFFキーをオンにする。**

●リセットにより、各種の記憶内容は消去され、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

### アンプ部

| 症　状 | 原　因 | 処　置 |
|---|---|---|
| 音が出ない。 | ●スピーカーコードがはずれている。<br>●音量を最小にしている。<br>●MUTEがオンになっている。<br>●スピーカースイッチがオフになっている。 | ●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。 →19<br>●適当な音量にする。<br>●MUTE(ミュート)をオフにする。 →30<br>●スピーカースイッチをオンにする。 →29 |
| スタンバイインジケーターが点滅し、音が出ない。 | ●スピーカーコードがショートしている。 | ●一時 電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度 電源スイッチを入れる。 |
| スピーカーの片側から音が出ない。 | ●スピーカーコードがはずれている。 | ●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。 →19 |
| サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない、または音が小さい。 | ●サラウンドスピーカー、センタースピーカーが接続されていない。<br>●サラウンドモードになっていない。<br>●サラウンドレベルおよびセンターレベルが最小になっている。 | ●「スピーカーの接続」を見て正しく接続し直す。 →19<br>●サラウンドモードにする。<br>●テストトーンを使って、スピーカーのレベルを調節する。 →26 |
| 入力切換キーをPHONO(フォノ)にするとブーンという音が出る。 | ●オーディオコードがプレーヤーのPHONO端子にしっかりと差し込まれていない。<br>●プレーヤーのアース線が接続されていない。 | ●オーディオコードをPHONO(フォノ)端子にしっかりと差し込む。<br>●アース線を背面のGND端子に接続する。 |
| DVDプレーヤーでドルビーデジタルのソースの再生を始めると最初の音が切れる。 | ●DVDプレーヤーの種類によって、いろいろな原因があります。 | ●インプットモードをデジタルマニュアルにしてからドルビーデジタルのソースを再生する。 →13 |
| DVDを再生しても、音が出ない。 | ●インプットモードがデジタルマニュアルに設定されている。 | ●INPUT MODE(インプットモード)キーを押して、デジタルオートを選ぶ。 →13 |
| ビデオ入力からの録画ができない。 | ●コピープロテクトがかかっている。 | ●コピープロテクトがかかっているソースは録画できません。 |

### チューナー部

| 症　状 | 原　因 | 処　置 |
|---|---|---|
| 放送局が受信できない。 | ●アンテナを接続していない。<br>●放送バンドが合っていない。<br>●受信したい放送局の周波数に合っていない。 | ●アンテナを接続する。 →23<br>●放送バンドを合わせる。<br>●受信したい放送局の周波数に合わせる。 →33 |
| 雑音が入る。 | ●自動車のイグニッションノイズ。<br>●電気器具の影響によるもの。<br>●テレビが近くにある。 | ●外部アンテナを道路から離して設置する。<br>●電気器具の電源を切ってみる。<br>●テレビから離す。 |
| プリセットしたあと、数字キーを押しても受信できない。 | ●プリセットした放送局が、受信できない周波数である。<br>●長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。 | ●受信できる周波数の放送局をプリセットする。<br>●もう一度プリセットする。 |

## リモコン操作

| 症　状 | 原　因 | 処　置 |
|---|---|---|
| **リモコンを使って、選べない入力がある。** | ●各入力に対して、セットアップ(IR)コードが登録されていない。 | ●それぞれの入力に対するセットアップコードまたは入力表示用のコードを登録する。 →45 |
| **リモコンで操作できない。** | ●リモコンが違った操作モードに設定されている。<br>●電池切れ。<br>●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。<br>●オーディオコードおよび、システムコントロールコードが正しく接続されていない。<br>●再生しようとする機器に、テープ、CDが入っていない。<br>●録音中のカセットデッキで再生しようとしている。<br>●操作をしようとしている装置がリモートコントロールの操作モードに登録されていない。 | ●ソース選択キーまたは**SOURCE** ⏻キーを押して、適切な操作モードを選ぶ。<br>●新しい電池と交換する。<br>●操作範囲内で操作する。 →24<br>●「接続のしかた」をみて正しく接続し直す。<br>●再生しようとする機器に、テープ、CDを入れる。<br>●録音が終わるまで待つ。<br>●ソース選択キーまたは**SOURCE** ⏻キーを押し、コントロールしようとしている装置の操作モードを起動する。 →44 |

# 定格

⚠このページは安全確保のために必ずお読みください。

## オーディオ部

ステレオ モード
定格出力（JEITA）（20 Hz ～ 20 kHz、0.09%、6 Ω）
........ 100 W + 100 W
実用最大出力 ........ 130 W + 130 W（EIAJ、6 Ω）
サラウンド モード（1ch動作時）
最大出力
FRONT（フロント） ........ 100 W + 100 W（1 kHz、0.09%、6 Ω）
CENTER（センター） ........ 100 W（1 kHz、0.09%、6 Ω）
SURROUND（サラウンド） .... 100 W + 100 W（1 kHz、0.09%、6 Ω）
SURROUND BACK/SUBWOOFER（サラウンドバック/サブウーファー）
........ 100 W + 100 W（1 kHz、0.09%、6 Ω）
全高調波歪率 ........ 0.009%（1 kHz、50 W、6 Ω）
周波数特性
Line (CD/DVD、TAPE、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、DVD/6CH)
........（10 Hz ～ 100 kHz）+ 0 dB ～ -3 dB
イコライザ偏差 ........ 40Hz～20kHz、+1.5dB ～ -3 dB
最大許容入力電圧
PHONO (MM) ........ 45mV、1%
SN比（IHF'66）
PHONO (MM) ........ 75 dB (EIAJ)
Line (CD/DVD、TAPE、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、DVD/6CH)
........ 95 dB (EIAJ)
入力端子（感度/インピーダンス）
PHONO (MM) ........ 4 mV / 47 kΩ
Line (CD/DVD、TAPE、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、DVD/6CH)
........ 320 mV / 47 kΩ
出力端子（レベル/インピーダンス）
TAPE REC ........ 320 mV / 1 kΩ
PRE OUT（プリアウト）(FRONT, CENTER, SURROUND)
........ 1 V / 500 Ω
PRE OUT（プリアウト）(SURROUND BACK) ........ 1 V / 500 Ω
PRE OUT（プリアウト）(SUBWOOFER) ........ 1 V / 500 Ω
トーン コントロール特性
BASS ........ ±10 dB（100 Hz）
TREBLE ........ ±10 dB（10 kHz）
ラウドネス コントロール特性
VOLUME -30 dBレベル ........ +6 dB（100 Hz）

## デジタル部

対応サンプリング周波数 ........ 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz
入力端子（感度/インピーダンス/波長）
オプチカル ........（-15 dBm ～ -24 dBm）660 nm ±30 nm
コアキシャル ........ 0.5 Vp-p / 75 Ω
出力端子（感度/インピーダンス/波長）
オプチカル ........（-21 dBm ～ -15 dBm）660 nm ±30 nm

## ビデオ部

入力端子/出力端子（感度/インピーダンス）
VIDEO（コンポジット） ........ 1 Vp-p / 75 Ω
S VIDEO（感度/インピーダンス）
S VIDEO（Y-信号） ........ 1 Vp-p / 75 Ω
S VIDEO（C-信号） ........ 0.286 Vp-p / 75 Ω
COMPONENT VIDEO（感度/インピーダンス）
COMPONENT VIDEO（Y-信号） ........ 1 Vp-p / 75 Ω
COMPONENT VIDEO（CR/CB-信号） ........ ±0.32 Vp-p / 75 Ω

## FM チューナー部

受信周波数範囲 ........ 76 MHz ～ 90 MHz
アンテナインピーダンス ........ 75 Ω不平衡
実用感度（モノラル75 Ω） ........ 1.6 µV (75 Ω) 15.2 dBf
（75 kHz DEV. SINAD 30 dB）
高調波ひずみ率（1 kHz）
モノラル ........ 0.3%
（71.2 dBf 入力時）
ステレオ ........ 0.7 %
（71.2 dBf 入力時）
SN比
モノラル ........ 75 dB
（71.2 dBf 入力時）
ステレオ ........ 68 dB
（71.2 dBf 入力時）
実効選択度（±400 kHz） ........ 50 dB
ステレオセパレーション（1 kHz） ........ 36 dB
周波数特性（30 Hz～15kHz） ........ + 0.5 dB ～ -3.0 dB

## AM チューナー部

受信周波数範囲 ........ 531 kHz ～ 1,602 kHz
実用感度（30%mod.、S/N 20 dB） ........ 18 µV (600 µV/m)
SN比（400 Hz、30%mod.）
モノラル ........ 48 dB (60dB µ VEMF入力時）

## 電源部・その他

定格消費電力（電気用品安全法に基づく表示） ........ 270W
待機時消費電力 ........ 2 W
最大外形寸法 ........ 幅：440 mm
高さ：159 mm
奥行：392 mm
重量（正味） ........ 12 kg

ご注意
1. これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
2. 極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

### メモリーバックアップ

本機に通電されていない状態にしてから、約1日ほど経過すると、以下の内容が消えますのでご注意ください。

- 電源オン／オフの状態
- 入力切換の設定
- 映像出力
- スピーカーオン／オフ
- ボリュームの値
- BASS、TREBLE、INPUTレベル
- TONE オン／オフ
- LOUDNESS オン／オフ
- DIMMERレベル
- MD／TAPE選択モード
- リッスンモードの設定
- スピーカーセットアップの内容
- SW RE-MIX オン／オフ
- 距離の設定
- バスピークレベル
- インプットモードの設定
- ミッドナイトモードの設定
- PRO LOGIC IIモードの設定
- CS IIモードの設定
- 受信バンド
- 周波数
- プリセット放送局
- 受信方法
- THXモード
- ACTIVE EQモード
- SPEAKER EQモード
- DSPモード

# 保証とアフターサービス（よくお読みください）

## 保証書（別途添付）
製品には保証書が（別途）添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

## 保証期間
保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

## 修理に関するご相談ならびにご不明な点は
修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。
（お問い合わせ先は、添付の「ケンウッドサービス網」をご覧ください。）

## 補修用性能部品の保有期間
当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## シリアル番号について
システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器（基本システム）すべての保証修理が受けられます。

## 修理を依頼される時は
「故障かな？と思ったら」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

## 保証期間中は
保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービス窓口が修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

## 出張修理／持込修理
「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼される時は、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号（Serial No.）
- お買い上げ年月日
- 故障の症状（できるだけ具体的に）
- ご住所（ご近所の目印等も併せてお知らせください）
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

## 保証期間が過ぎている時は
保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

## 修理料金の仕組み
（有料修理の場合は、次の料金をいただきます）
- 技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代：修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送　料：郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

お買上げ店名

電話（　　　　）　　　-


KENWOOD
株式会社ケンウッド
〒192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3


商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。


カスタマーサポートセンター東京　電話（03）3477-5335　FAX（03）3477-5334　〒153-0042東京都目黒区青葉台 3-17-9
カスタマーサポートセンター大阪　電話（06）6394-8085　FAX（06）6394-8308　〒532-0034大阪市淀川区野中北 2-1-22


アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、添付の「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。